

第3次 成田市

食 育 推 進 計 画



令和5(2023)年3月

成田市

はじめに

食は、人々が生活をしていくうえで欠かせないものです。

本市では、食育基本法に基づき、平成 23 年に「成田市食育推進計画」、平成 30 年に「第 2 次成田市食育推進計画」を策定し、『食が育む元気なからだ 食でつながる豊かな心』を基本理念に、食育に関する様々な施策を展開することで、食育への理解を深めることができるよう取り組んでまいりました。



近年、新型コロナウイルス感染症の影響やテレワークの浸透、SDGs の普及など社会環境の変遷により、食を取り巻く状況は大きく変化しており、新たな取り組みが求められています。

このような中、基本理念を承継しつつ、これまでの取り組みをより一層充実していくため、昨今の情勢に対応した「第 3 次成田市食育推進計画」を策定しました。

本計画では、「新たな日常」への対応として、デジタルツールやインターネットを使用したオンラインでの非接触型の新たな食育を、各ライフステージに応じて展開し、特に、食育に対する意識の低い層にも関心を持ってもらうため、効果的な情報発信を行います。

また、県内でも有数の農業産出額を誇る本市の強みを生かし、地産地消や農業体験などの取り組みを通じて、地域の魅力を再発見し、産地や生産者、環境や安全を意識して食べ物などを選ぶ力を養うとともに、食育活動を SDGs の目標と関連付けることで食品ロスなどの課題解決に向け、市民一人一人の意識醸成を図り、生涯にわたって元気に暮らせるまちづくりを目指していきます。

今後も、幅広い分野にわたる食育の推進には、家庭や地域、企業、関係団体といった様々な主体の連携が不可欠となりますので、より一層の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、この計画の策定にあたり、アンケート調査やワークショップ、パブリックコメントなどで貴重なご意見をいただきました多くの皆様に、心から感謝申し上げます。

令和 5 (2023) 年 3 月

成田市長 小 泉 一 成

目次

第1章 計画策定にあたって	1
1. 計画策定の趣旨	1
2. 計画の位置付け	2
3. 計画期間	2
4. 前計画の達成状況	3
第2章 食を取り巻く現状と課題	5
1. 成田市の概要	5
2. 食に関する意識調査	15
3. ワークショップの開催	43
4. 今後の課題	45
第3章 計画の基本的な考え方	50
1. 基本理念	50
2. 基本目標	51
3. 目標値一覧	53
4. 体系図	55
第4章 具体的な取り組み	58
1. 家庭における望ましい食習慣の定着	58
2. 食に関する体験活動の推進	61
3. 学校・幼稚園・保育所等における食育の推進	62
4. 地域における食生活改善や企業・大学等と連携した食育の推進	65
5. 地産地消による交流の促進	67
6. 食の安全・安心への理解	69
7. 食を育む環境への理解や災害時を意識した食育の推進	71
8. 郷土料理による食文化の伝承	73
9. 食育に関する情報の提供	74
■ ライフステージでみる食育	75

第5章 計画の推進	76
1. ネットワーク体制	76
2. 計画の進行管理	78
資料編	79
1. 成田市食育推進計画策定委員会設置要綱	80
2. 策定経過	82
3. アンケート調査票	84

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

国が「食育基本法」を施行してから17年余が経過しました。以前は「食育」という言葉にあまり馴染みがありませんでしたが、現在では多くの方が理解を示し、食事や健康づくりへの関心が高まり、生活習慣病の予防や改善のため食生活や運動に気をつける人が増えてきています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症をはじめとする社会環境の変化により、食生活をめぐる環境が大きく変化している中で、栄養バランスの偏った食事や不規則な時間での食事の増加、肥満や生活習慣病（がん、心疾患など）の増加、食品ロスなどが問題になるとともに、食を取り巻く環境への関心も高まっています。

そのような中、国では、令和3（2021）年3月に「第4次食育推進基本計画」を策定し、千葉県でも、令和4（2022）年3月に「第4次千葉県食育推進計画」を策定し、『県民一人一人が主役となり、健康で笑顔あふれる暮らし』の実現を目指しています。

本市では、平成30（2018）年3月に「第2次成田市食育推進計画」を策定し、食育推進についての市民意識の高揚を図るとともに、市民一人一人が、自らの食について考える機会や、食に関する様々な知識と食を選択する力を身につけることができるよう取り組んできました。また、家庭や地域、学校、幼稚園、保育所、生産者団体、食品関連事業者、ボランティア等の様々な立場の関係者と連携・協力を図ることで、食育活動を推進してきました。

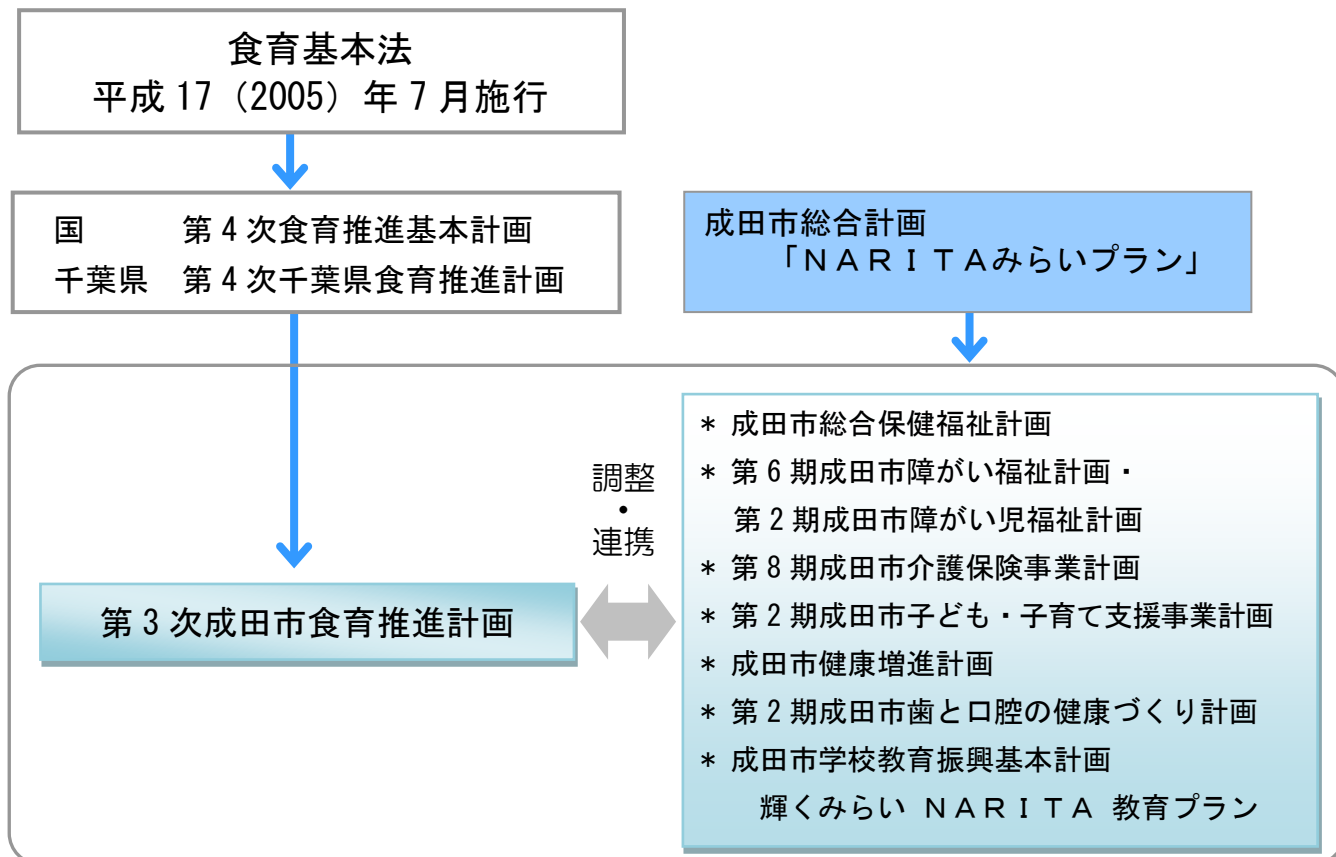
第3次の計画策定にあたっては、第2次の食育推進計画の基本理念を継承した中で、十分な成果が得られなかった目標及び各課題への引き続いての対応や、新たな取り組みを盛り込むことで、本市の特性を活かし、市民一人一人が主役となった食育を推進します。

★食育とは・・・

食育は、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの。様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

2 計画の位置付け

本計画は、平成 17 (2005) 年 7 月に施行された食育基本法第 18 条「市町村食育推進計画」の規定に基づく計画として位置付け、千葉県食育推進計画や市の各種計画との整合性を図るものとします。



3 計画期間

本計画の期間は、令和 5 (2023) 年度から令和 9 (2027) 年度までの 5 年間とします。
なお、計画期間中に社会情勢の変化などが生じた場合には、必要に応じて見直すこととします。

令和 3 (2021)年	令和 4 (2022)年	令和 5 (2023)年	令和 6 (2024)年	令和 7 (2025)年	令和 8 (2026)年	令和 9 (2027)年
(国) 第 4 次食育推進基本計画						
	(県) 第 4 次千葉県食育推進計画					
		(市) 第 3 次成田市食育推進計画				

4 前計画の達成状況

(1) 指標の達成状況

前計画については、成果や達成度を指標により把握できるよう 18 項目の数値目標を設定しています。今回実施したアンケート調査の結果を受けての、数値目標の達成状況は次のとおりです。

基本目標 1 市民への食育の普及

指標	対象	策定時 (H28)	目標値 (R4)	現状値 (R4)	国・県現状値 (R元またはR2)	評価
食育に関心を持っている人の割合	20歳以上	74.4%	90%以上	78.4%	国 83.2% 県 68.1%	△
食育を実践している人の割合	20歳以上	52.8%	60%以上	56.0%	-	△

食育への関心度及び実践している人の割合については高まっていますが、目標値を達成できていない状況です。食育への関心が、適正な食生活への実践に結びつくことから、引き続き食育の普及・啓発に努めていく必要があります。

基本目標 2 健全な食生活で、元気なからだと心を育む

指標	対象	策定時 (H28)	目標値 (R4)	現状値 (R4)	国・県現状値 (R元またはR2)	評価
「食事バランスガイド」等の食生活上の指針を参考にしている人の割合	20歳以上	48.1%	60%以上	47.9%	-	●
1日2回以上栄養バランスのとれた食事を心がけている人の割合	20歳以上	72.2%	80%以上	66.9%	-	●
朝食を欠食する人の割合	小学5年生	3.2%	0%を目指す	3.7%	国 4.6%※1 県 3.1%	●
	中学2年生	5.7%	0%を目指す	4.6%	国 6.9%※2 県 5.1%	△
	20歳代男性	26.1%	13%以下	9.7%	国 21.5% 県 22.5%	○
	20歳代女性	19.5%	9%以下	24.4%		●
	30歳代男性	16.7%	8%以下	13.5%		△
	30歳代女性	7.0%	3%以下	8.0%		●
週1回も家族や友人と食事をしていない人の割合	20歳以上	7.1%	5%以下	11.8%	-	●
	60歳代	8.1%	5%以下	11.6%	-	●

国における現状値・・・※1 小学6年生、※2 中学校3年生のデータ

「食事バランスガイド」等の食生活上の指針を参考にしている人、1日2回以上栄養バランスのとれた食事を心がけている人の割合は減少しており、目標値を達成できていない状況となります。また、朝食の欠食については、20歳代の男性で目標値を達成できている一方、その他の対象区分については、目標値を達成できていない状況となっています。なお、中学2年生、30歳代の男性では、欠食率が低下しており改善傾向にあることから、達成できていない対象区分も含め、学校での取り組みや若い世代への欠食の対応を引き続き行う必要があります。

基本目標3 安全・安心な食の環境づくり

指標	対象	策定時 (H28)	目標値 (R4)	現状値 (R4)	国・県現状値 (R元またはR2)	評価
食品を購入する際、栄養成分表示を参考にしている人の割合	20歳以上男性	47.6%	60%以上	47.3%	-	●
	20歳以上女性	58.4%	70%以上	58.4%		●
食べ残しなどを減らす努力をしている人の割合	20歳以上	54.1%	70%以上	51.2%	-	●

20歳以上の食品を購入する際、栄養成分表示を参考にしている人、食べ残しなどを減らす努力をしている人の割合は減少しており、目標値を達成できていない状況となります。食品を購入する際、栄養成分表示を参考にしている人の割合を増加させることで、健康的な食生活の実現に寄与することから、引き続き取り組みを推進していきます。また、食べ残しなどを減らす努力をしている人の割合を増加させることで、SDGsの推進にも寄与することから、食の大切さを伝えていけるよう取り組みを推進します。

基本目標4 地域の食文化の魅力発信

指標	対象	策定時 (H28)	目標値 (R4)	現状値 (R4)	国・県現状値 (R元またはR2)	評価
成田市の地場産物の認知度	小学5年生 中学2年生	49.2%	80%以上	77.8%	-	△
	20歳以上	41.8%	70%以上	62.7%	-	△
成田市の郷土料理の認知度	20歳以上	15.7%	30%以上	15.0%	-	●

本市の地場産物の認知度は、全対象区分で認知度が上昇しています。一方、郷土料理の認知度については減少しており、地場産物や郷土料理を多くの人に知ってもらうことができるよう、引き続き普及に努めていく必要があります。

○・・・達成できた項目

△・・・目標は達成していないものの改善している項目

●・・・未達成の項目

第2章 食を取り巻く現状と課題

1 成田市の概要

(1) 人口・世帯

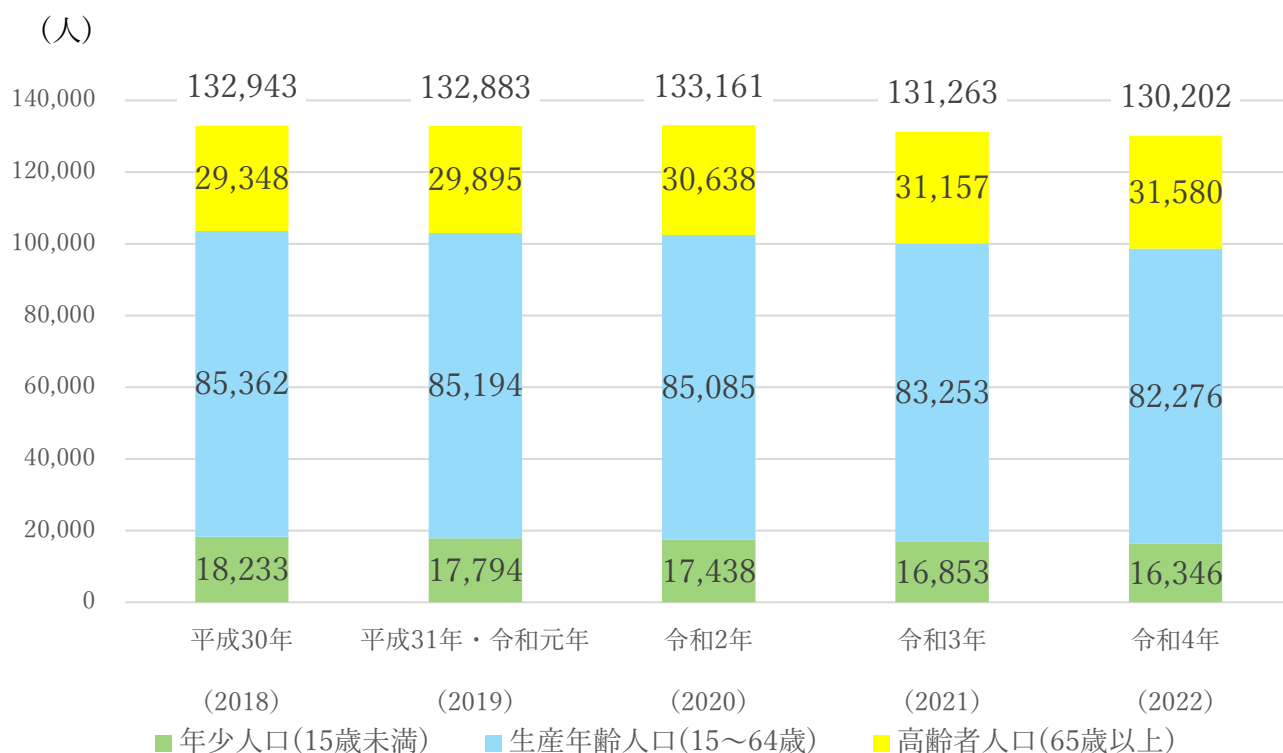
■人口は減少傾向

本市の人口は減少傾向にあり、令和4(2022)年では130,202人となっています。年齢3区分人口をみると、高齢者人口は増加を続け、令和4(2022)年は31,580人、高齢化率は24.3%となっています。また、生産年齢人口及び年少人口については減少が続いており、令和4(2022)年の生産年齢人口は82,276人、生産年齢人口比率は63.2%、年少人口は16,346人、年少人口比率は12.6%となっています。

世帯数は令和2(2020)年以降減少し、令和4(2022)年は62,792世帯となっており、1世帯あたり人員は2.07人と減少が続いています。

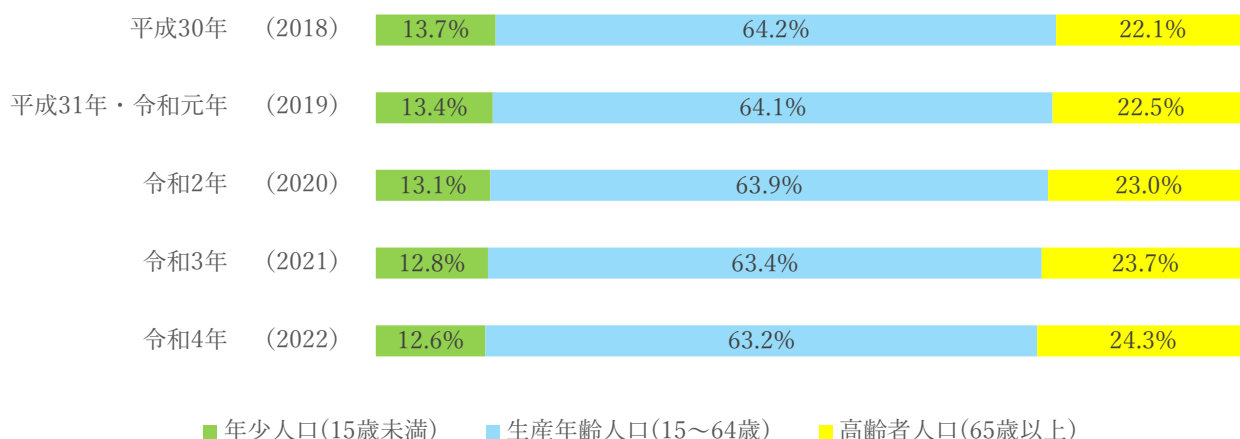
しかしながら、今後の人口推移については、成田空港の更なる機能強化や本市で実施する施策の効果により令和27(2045)年まで増加が見込まれています。(資料：成田市人口ビジョンより)

人口・年齢3区分別人口の推移



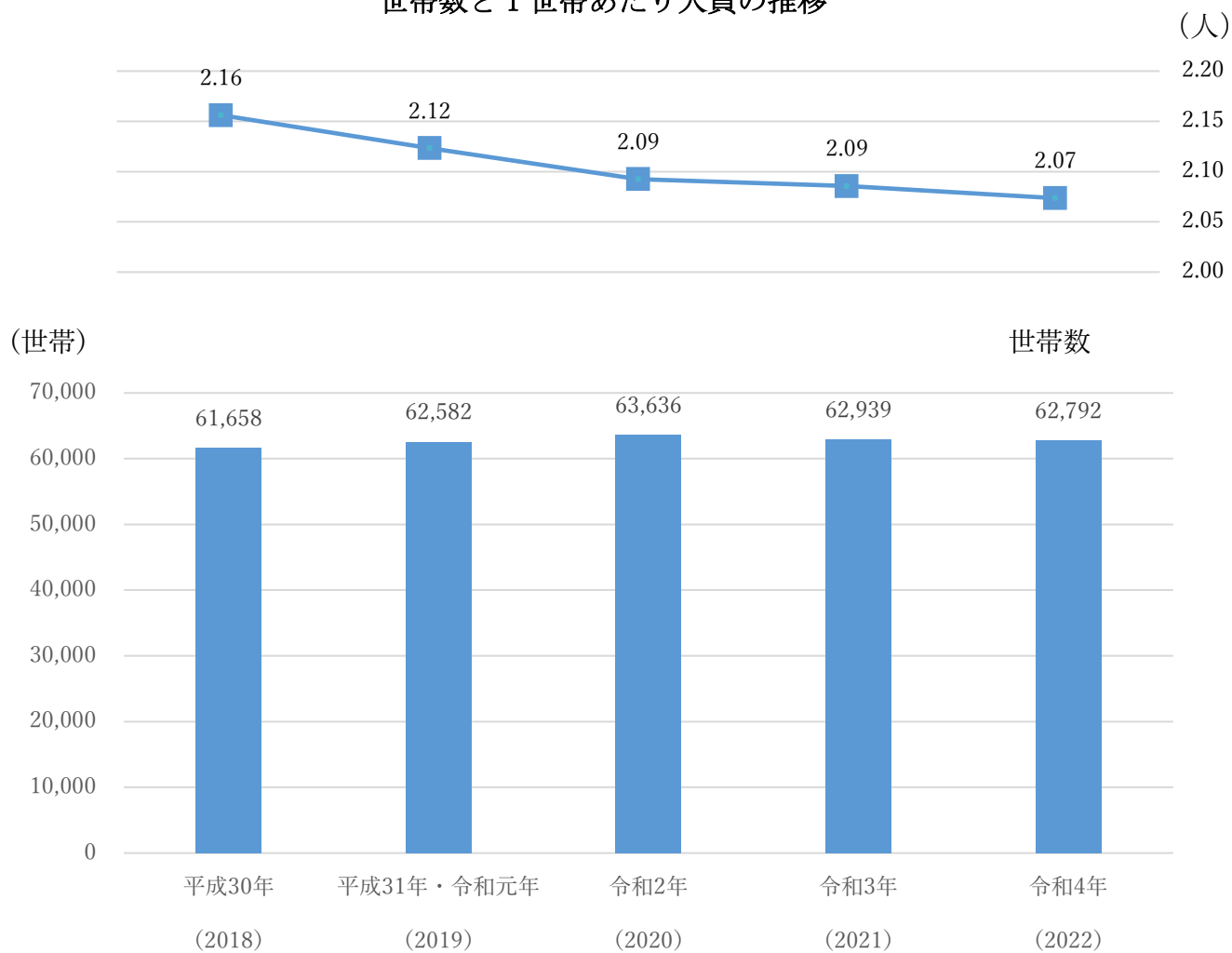
資料：千葉県年齢別・町丁字別人口（各年4月1日現在）

年齢3区分人口構成比の推移



資料：千葉県年齢別・町丁字別人口（各年4月1日現在）

世帯数と1世帯あたり人員の推移

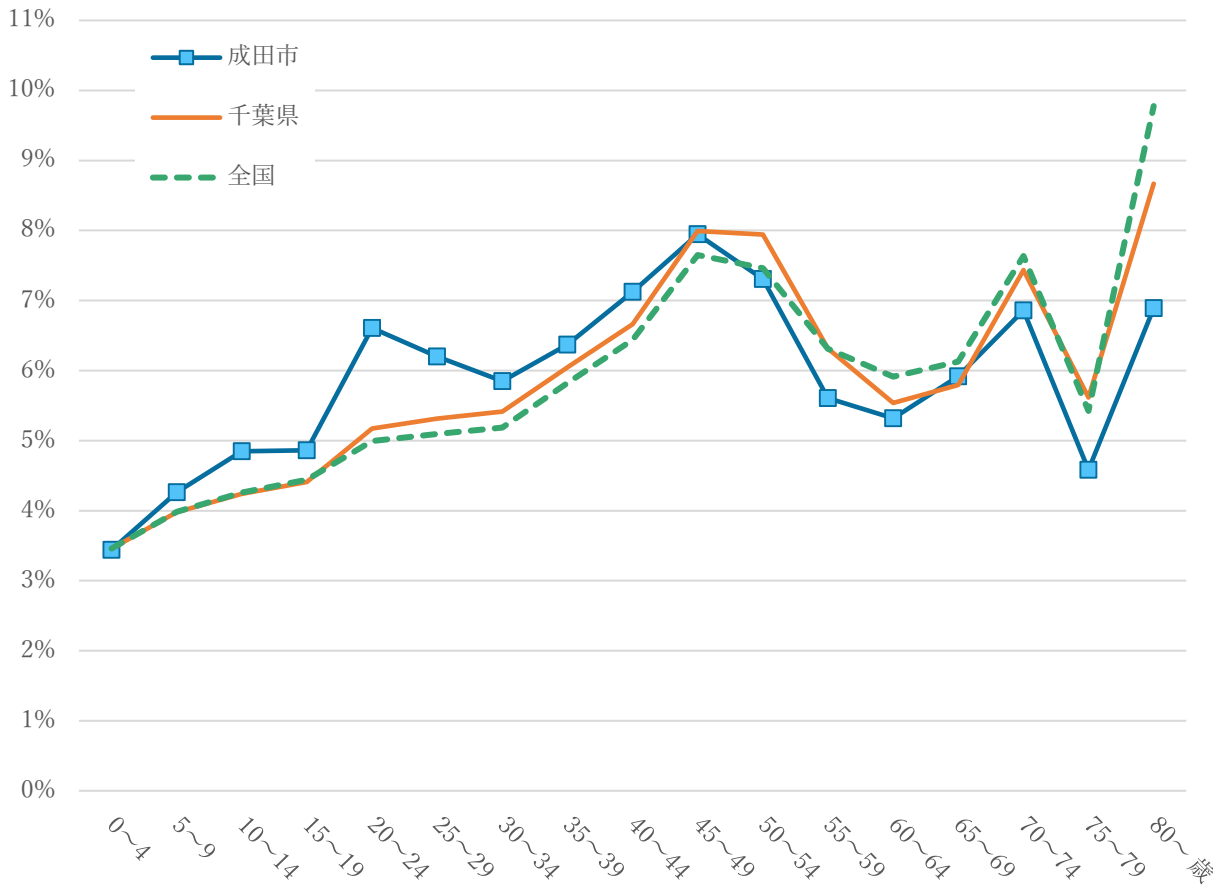


資料：千葉県年齢別・町丁字別人口（各年4月1日現在）

■働き盛りの世代が多い

令和4（2022）年の年齢別人口構成比を国・県と比べると、本市では5～44歳までの割合が大きく、一方、50～64歳、70～80歳以上の構成比が低いことがわかります。

年齢別人口構成比の比較



資料：千葉県年齢別・町丁字別人口 令和4（2022）年4月1日現在
 総務省統計局人口推計 令和4（2022）年4月1日現在

(2) 農業



■全国でも有数のさつまいもの産地

本市では、総面積のうち約36%が農地（田畑）として利用されています。（資料：令和3年版成田市統計書より）

農家人口は減少が続いており、令和2（2020）年 5,055 人となっています。販売農家は、令和2（2020）年 1,391 戸ですが、農家人口に比例し、減少が続いています。

また、主業農家についても、減少が続いており、令和2（2020）年では404 戸となっています。

令和2年市町村別農業産出額（推計）によると、米が県内で3位、さつまいもなどのいも類が県内1位、全国2位となっています。

農家人口と農家数

単位：人、戸（経営体）

		平成 17 (2005)年 ^{※1}	平成 22 (2010)年	平成 27 (2015)年	令和 2 (2020)年
農家人口 ^{※2}		11,509	9,046	6,635	5,055
農家数	販売農家	2,493	2,067	1,651	1,391
	自給的農家	346	453	511	465
	農家総数	2,839	2,520	2,162	1,856
主副業別	主業 ^{※2}	738	641	488	404
	準主業 ^{※2}	587	499	298	190
	副業的 ^{※2}	1,168	927	865	798

資料：農林業センサス（各年2月1日現在）

※1 平成17（2005）年は旧3市町の合計

※2 平成27（2015）年までは販売農家、令和2（2020）年は個人経営体における数値

■学校給食では年間を通して成田産食材を活用

本市では、児童生徒が地域の自然や食文化、身近な生産者の方々の努力や食に対しての関心を深めることができるよう成田産食材の活用を図っています。

成田産食材の給食活用状況 令和3（2021）年度

■ …食材の使用月を示しています



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
米	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■
人参	■	■	■	■				■	■	■	■	■
大根			■				■	■	■	■		
長ネギ								■		■		
玉ねぎ		■	■									
じゃがいも			■	■								
さつまい	■		■			■	■	■	■	■	■	■
ごぼう				■								
レンコン	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■
ほうれん草		■	■					■	■	■		
キャベツ	■	■		■				■	■	■	■	
小松菜	■	■	■			■	■	■	■	■	■	■
チンゲン菜		■	■								■	
白菜								■				
きゅうり	■	■	■			■	■	■	■	■	■	■
かぶ										■		
とうもろこし				■								
ブロッコリー								■	■			
トマト			■									
セロリ	■											
青ピーマン			■									
メロン				■								
栗						■	■					

資料：学校給食センター

■市民農園と農業体験教室

本市では、自然とふれあえる場として、市民農園の貸し出しを行っています。

本市で管理している市民農園のほかに、民間で経営管理をしている農園が6つあり、それぞれ多くの方々が利用されています。

また、親子農業体験教室と題して、自然とふれあい、収穫の喜びを感じようと、毎年、親子で参加できるイベントを実施しています。

市民農園の設置状況

単位：区画

農園名	地区	区画数
成田市民農園（市営）	十余三	123
御料ふれあい農園	三里塚御料	28
並木町ふれあい農園	並木町	124
山王ふれあい農園	公津の杜	100
台畑農園	北須賀	42
京相農園	八代	35
坂田ヶ池ファーム	大竹	18

資料：農政課 令和4（2022）年8月現在



親子農業体験教室の参加状況

単位：組、人

	参加家族数	参加者数
平成 30 (2018) 年度	25	103
平成 31・令和元 (2019) 年度	14	54
令和 2 (2020) 年度 [※]		
令和 3 (2021) 年度	12	52
令和 4 (2022) 年度	9	37

資料：農政課

※令和 2 (2020) 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施していない。

<市内で行われている農業体験教室の様子>



(3) 食育に関する民間の活動

■「ちば食育ボランティア」の活動状況

「ちば食育ボランティア」は、学校教育や地域活動の場で「食」や「農林水産」に関する知識や経験などを話したり、郷土料理などの調理実習、農業体験の受け入れなどを実施したりするボランティアです。

本市には「ちば食育ボランティア」の登録者が9人います。

本市におけるちば食育ボランティアの登録人数

単位：団体、人

	成田市						千葉県
	登録分野						
	食生活改善	地産地消	農林水産業	料理	その他「食」や「農」に関するもの		
団体登録者	—	—	—	—	—	—	3,577
個人登録者	9	3	4	2	3	1	164
合計	9	3	4	2	3	1	3,741

資料：千葉県「ちば食育ボランティア名簿」 令和4（2022）年6月現在

※登録分野は複数登録されているため合計は一致しない。

■環境にやさしい農業への取り組み

千葉県では、環境にやさしい農業を進めるため、化学合成農薬と化学肥料を通常の2分の1以下に減らして栽培した農産物を「ちばエコ農産物」として認定しています。

市内には、「ちばエコ農産物」を取り扱っている直売所やスーパーなどの販売協力店が9店舗あります。

「ちば食育サポート企業」は、企業が独自に行う食育活動、または、公的機関や「ちば食育ボランティア」が実践する食育活動に支援・協力している企業として、千葉県が募集し登録した企業です。千葉県や市町村、学校、幼稚園、保育所等、ちば食育ボランティアが主体となって行う食育活動にあたり、見学の受け入れ、講師の派遣、調理施設の提供などの支援・協力をしています。

ちばエコ農産物販売協力店舗数・ちば食育サポート企業数

単位：店舗、企業

項目	成田市	千葉県
ちばエコ農産物販売協力店舗数 令和4（2022）年3月31日現在	9	396
ちば食育サポート企業数 令和4（2022）年4月1日現在	2	77

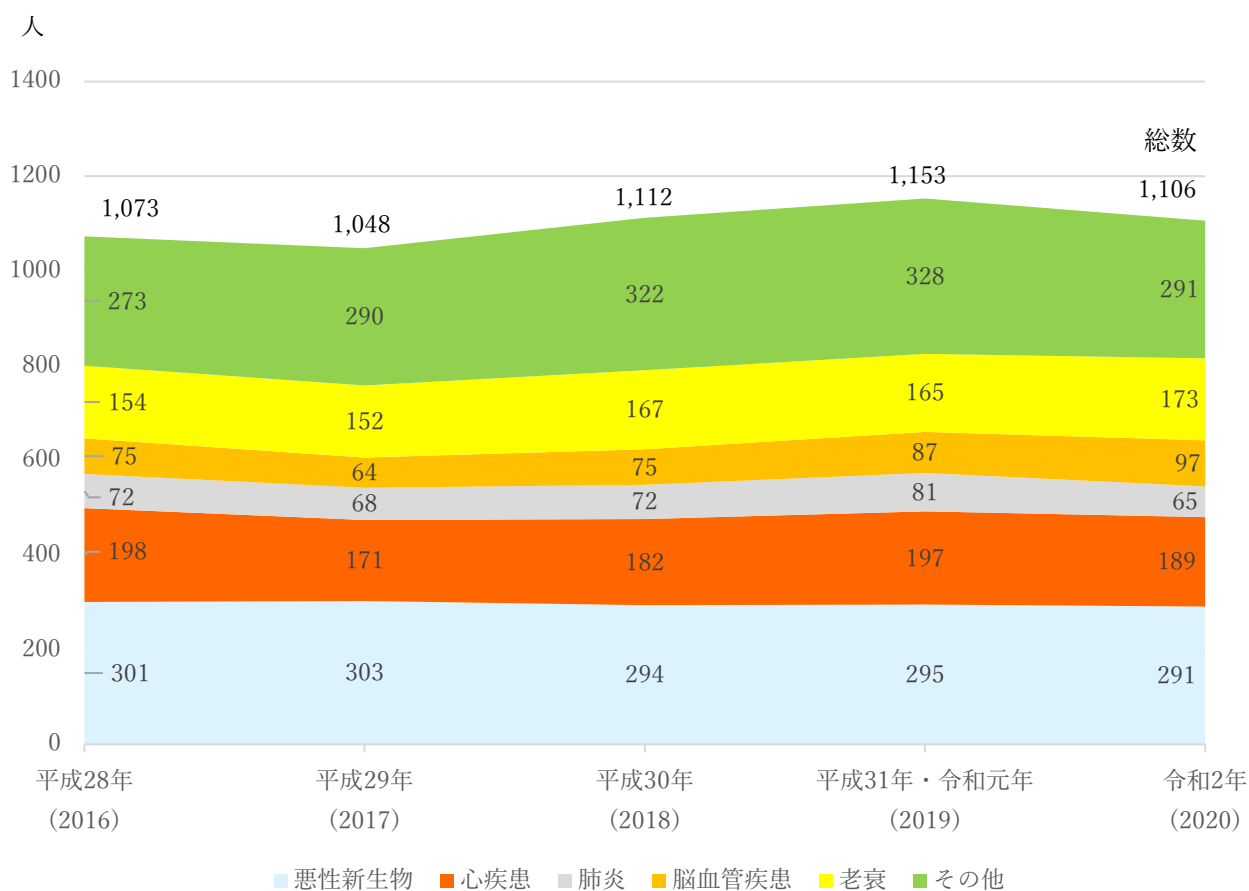
資料：千葉県

(4) 健康の状況

■生活習慣病による死亡者が半数

主要死因別死亡者数は、悪性新生物（がん）、心疾患、老衰、脳血管疾患が上位で推移していますが、生活習慣病による死亡者が半数を占めています。生活習慣病には、日常の食習慣などが深く関わっていることから、栄養バランスを考えた毎日の食生活が大切となります。

本市における主要死因別死亡者数の推移



資料：千葉県衛生統計年報

■平均自立期間は、65歳から男性が約18年、女性が約21年

平均余命^{※1}は、平成30(2018)年時点で、65歳男性19.34年、65歳女性23.94年と伸びています。

一方で、県と比較すると男性、女性いずれも本市はやや下回ります。

平均自立期間^{※2}は、平成30(2018)年時点で、65歳男性17.91年、65歳女性20.78年と伸びています。

一方で、県と比較すると男性、女性いずれも本市はやや下回ります。

※1 平均余命

ある年齢の人々がその後生きられる平均の年数。

※2 平均自立期間

日常生活に介護を要しない、要介護2以上の認定を受けるまでの期間。

平均余命と平均自立期間の推移

単位：年

	65歳男性			
	平均余命		平均自立期間	
	平成26 (2014)年	平成30 (2018)年	平成26 (2014)年	平成30 (2018)年
千葉県	19.05	19.61	17.47	18.03
成田市	18.39	19.34	17.10	17.91

	65歳女性			
	平均余命		平均自立期間	
	平成26 (2014)年	平成30 (2018)年	平成26 (2014)年	平成30 (2018)年
千葉県	23.61	24.27	20.27	20.91
成田市	23.14	23.94	20.38	20.78

資料：千葉県健康情報ナビ

2 食に関する意識調査

食に関する実態や、食育に関するニーズを把握するため、一般市民及び小学5年生、中学2年生、高校2年生、外国人を対象に、アンケート調査を令和4（2022）年に実施しました。

なお、比較で掲載している前回調査は、平成28（2016）年度のアンケート調査の結果です。

○調査の概要

項目	①一般市民調査	②小中学生調査	③高校生調査	④外国人調査
調査対象	市内在住の20歳以上の市民※	市内公立小中学校に通う小学5年生・中学2年生の児童生徒全員（義務教育学校含む）	市内公立高等学校に通う高校2年生の生徒全員	ALT関係者
調査方法	紙アンケート（郵送）	WEBアンケート	WEBアンケート	紙アンケート（個別配付）
調査期間（調査日）	令和4（2022）年 2月14日～3月31日	令和4（2022）年 2月14日～3月31日	令和4（2022）年 6月13日～7月29日	令和4（2022）年 7月26日
抽出数	2,000件	2,399件	821件	47件
有効回収数	844件	2,059件	527件	47件
有効回収率	42.2%	85.8%	64.2%	100.0%

※ 抽出条件

- 世帯内重複を除く
- 外国人を除く

■食に関する意識調査を読む際の留意点

- 調査結果の比率は、その設問の回答者を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超えます。
- 掲載している表は、年代・性別の無回答者がいるため、全体と内訳が一致しません。

(1) 市民への食育の普及

■「食育」に関心を持っている人の割合

一般 . . . 78.4%
外国人 . . . 42.6%

【一般】

食育への関心について、「ある」(28.6%)と「どちらかといえばある」(49.8%)を合わせた『ある』は、78.4%となっています。

年代別では、「食育」に関心が『ある』との回答は、40歳代で最も高く、83.1%となっています。

また、20歳代では「どちらかといえはない」(15.4%)と「ない」(14.1%)を合わせた、「食育」に関心が『ない』との回答は、29.5%と他の年代を上回ります。

(前回調査との比較)

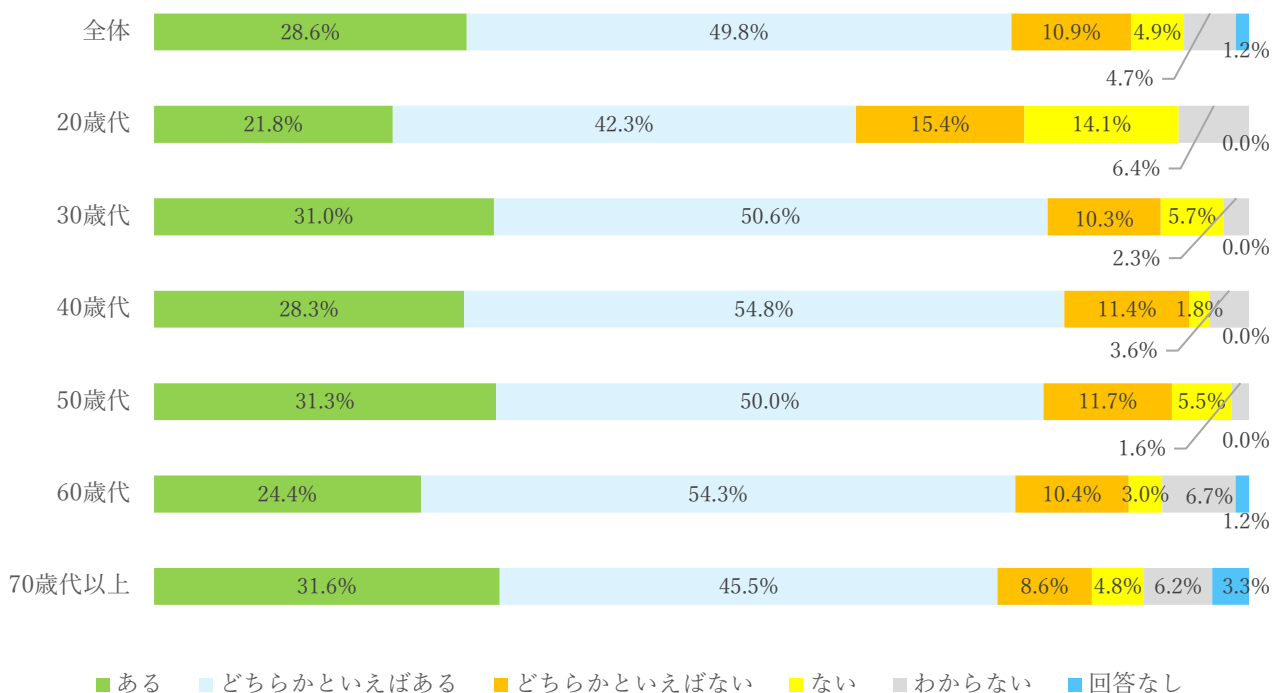
食育への関心が『ある』との回答は増加しており、関心が高まっていることがわかります。

【外国人】

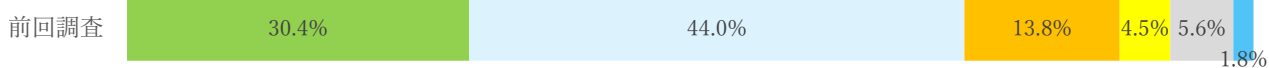
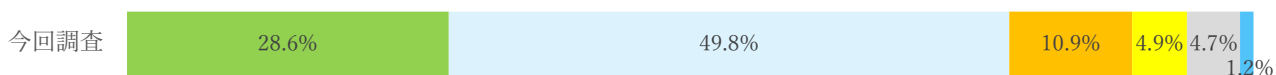
選択肢が異なるため、単純に比較はできませんが「ある」との回答は、42.6%と一般を大きく下回っています。

「食育」への関心について

【一般】

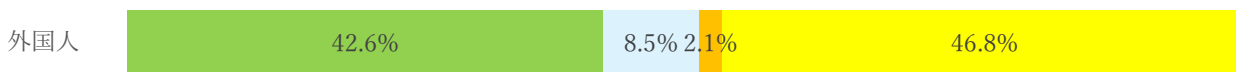


(前回調査との比較)



■ ある ■ どちらかといえばある ■ どちらかといえばない ■ ない ■ わからない ■ 回答なし

【外国人】



■ ある ■ ない ■ 回答なし ■ 意味は知らない

■「食育」を実践している人の割合

一般 . . . 56.0%

外国人 . . . 38.3%

【一般】

食育の実践について、「積極的にしている」(6.0%)と「できるだけ、するようにしている」(50.0%)を合わせた『している』との回答は56.0%となっています。

年代別では、『している』との回答は、40歳代で最も高く、62.6%となっています。

また、20歳代では「あまりしていない」(26.9%)と「していない」(20.5%)を合わせた『していない』との回答は、47.4%と他の年代を上回ります。

(前回調査との比較)

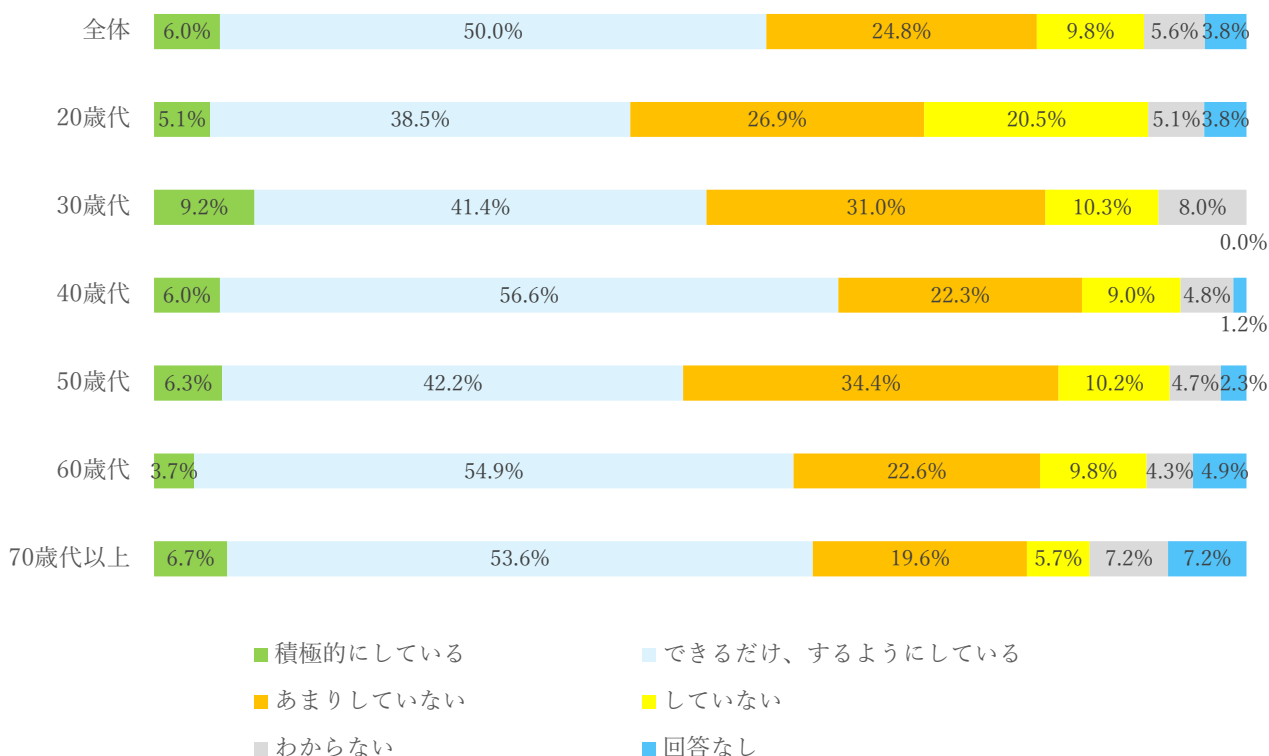
食育の実践を『している』との回答は、増加しており、関心が高まっていることがわかります。

【外国人】

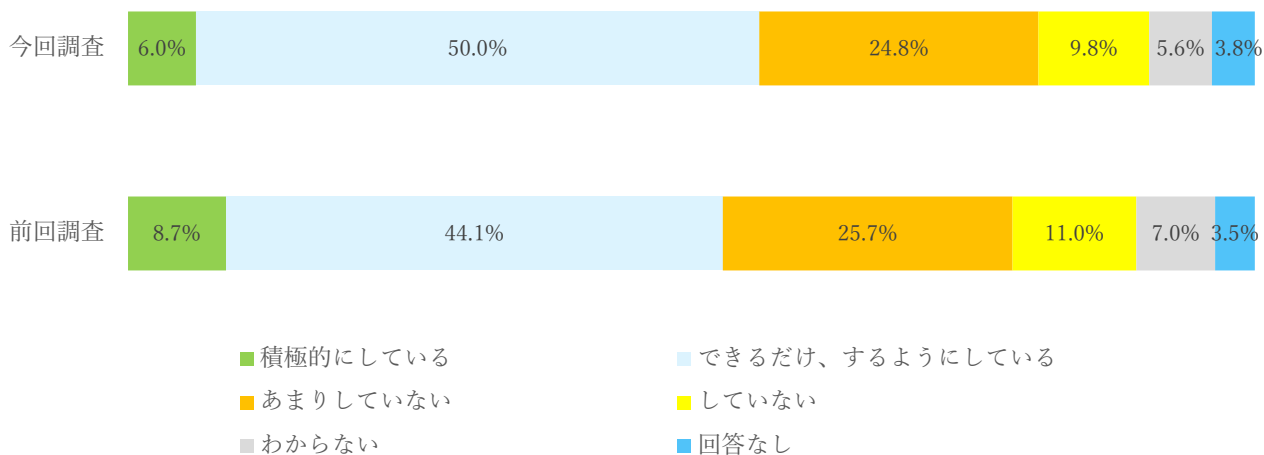
選択肢が異なるため、単純に比較はできませんが「している」との回答は、38.3%と一般を下回っています。

日頃から「食育」を実践しているか

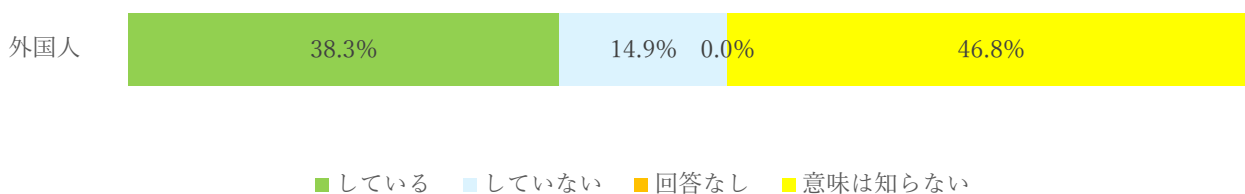
【一般】



(前回調査との比較)



【外国人】



(2) 健全な食生活で、元気なからだを育む

■「食事バランスガイド」等の食生活上の指針を参考にしている人の割合

一般 . . . 47.9%

外国人 . . . 61.7%

【一般】

食生活で参考にしている指針では、「特にない」が48.0%で最も多くなっていますが、「食事バランスガイド」(22.6%)、「6つの基礎食品」(20.5%)、「3色分類」(16.0%)などが上位にあげられています。

年代別では、すべての年代で、「特にない」が最も高く、60歳代では「6つの基礎食品」との回答が他の年代を大きく上回っています。

(前回調査との比較)

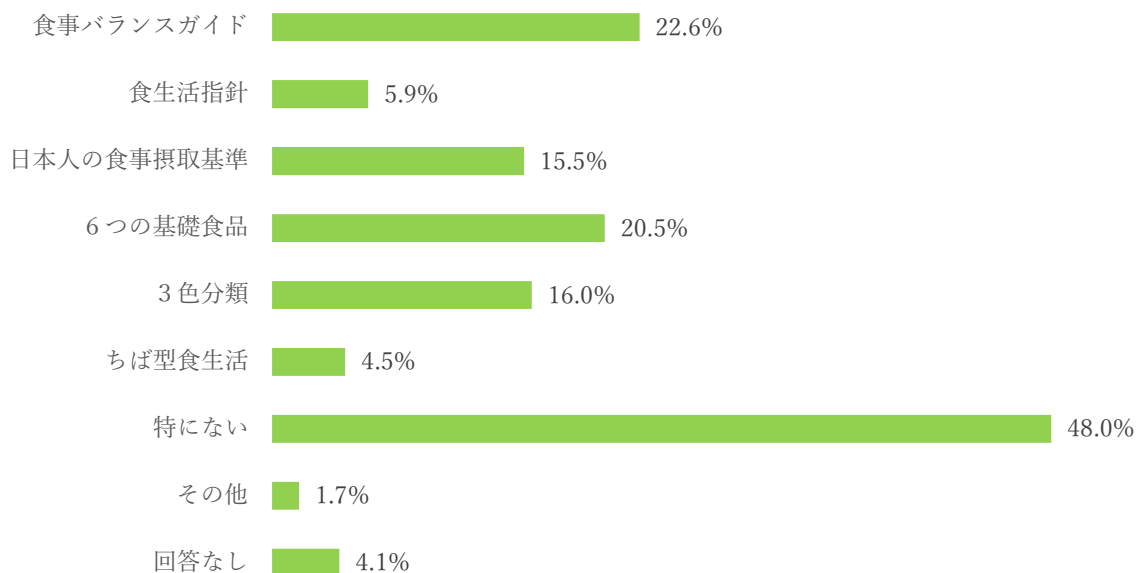
前回調査と比較すると、「特にない」との回答が増加しています。また、それに伴い「日本人の食事摂取基準」以外の指針は、今回調査では減少しています。

【外国人】

健全な食生活を実践するため、栄養基準（出身国の基準も含む。）などを参考にしている人は61.7%となっており、一般を上回っています。

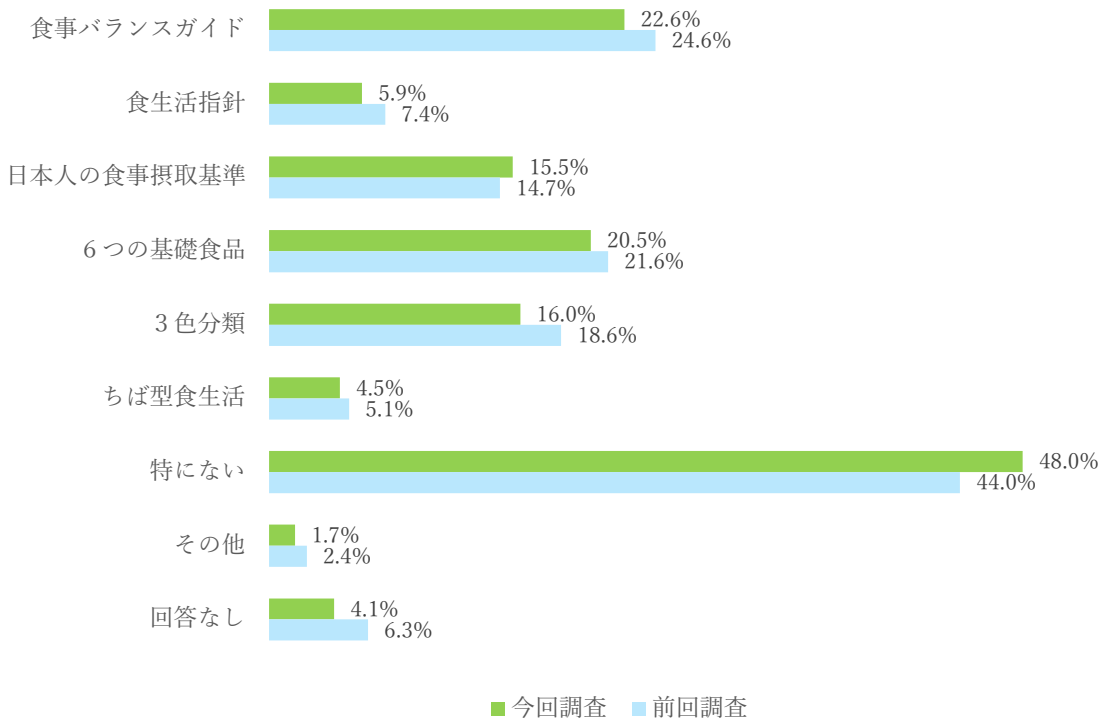
食生活で参考にしている指針（複数回答）

【一般】

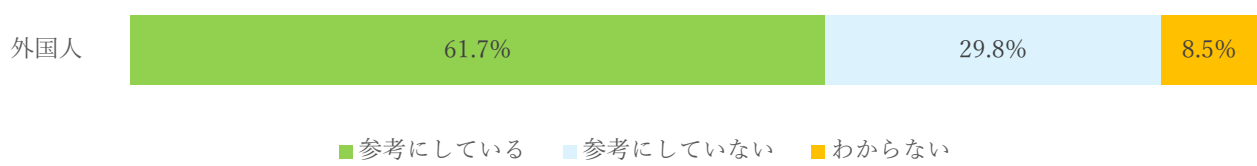


	回答者数	食事バランスガイド	食生活指針	日本人の食事摂取基準	6つの基礎食品	3色分類	ちば型食生活	特にない	その他	回答なし	
全体	844人	22.6%	5.9%	15.5%	20.5%	16.0%	4.5%	48.0%	1.7%	4.1%	
年代	20歳代	78人	21.8%	7.7%	17.9%	15.4%	19.2%	2.6%	48.7%	1.3%	2.6%
	30歳代	87人	16.1%	8.0%	19.5%	19.5%	21.8%	4.6%	46.0%	2.3%	0.0%
	40歳代	166人	25.3%	2.4%	14.5%	19.3%	17.5%	3.6%	51.8%	0.6%	0.0%
	50歳代	128人	14.1%	6.3%	17.2%	21.1%	13.3%	3.1%	50.0%	3.1%	1.6%
	60歳代	164人	28.7%	4.9%	13.4%	27.4%	17.1%	5.5%	47.6%	1.2%	3.7%
	70歳代以上	209人	23.9%	7.2%	13.9%	18.2%	12.4%	5.3%	45.0%	1.9%	11.5%

(前回調査との比較)



【外国人】



■1日2回以上栄養バランスのとれた食事を心がけている人の割合

一般・・・66.9%

外国人・・・93.6%

【一般】

栄養バランスのとれた食事を1日2回以上心がけている人は、「はい」が66.9%となっています。

年代別では、年代が高くなるほど、バランスのとれた食事を心がけている人の割合が多い傾向にあります。

(前回調査との比較)

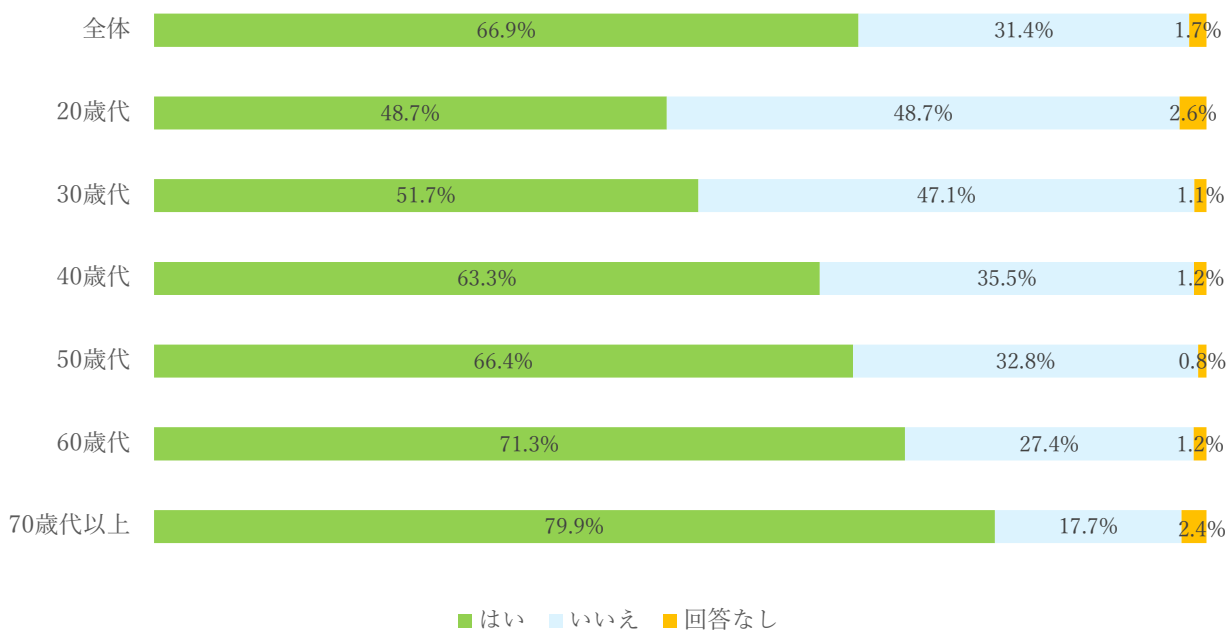
「はい」との回答は、前回調査に比べ減少しています。

【外国人】

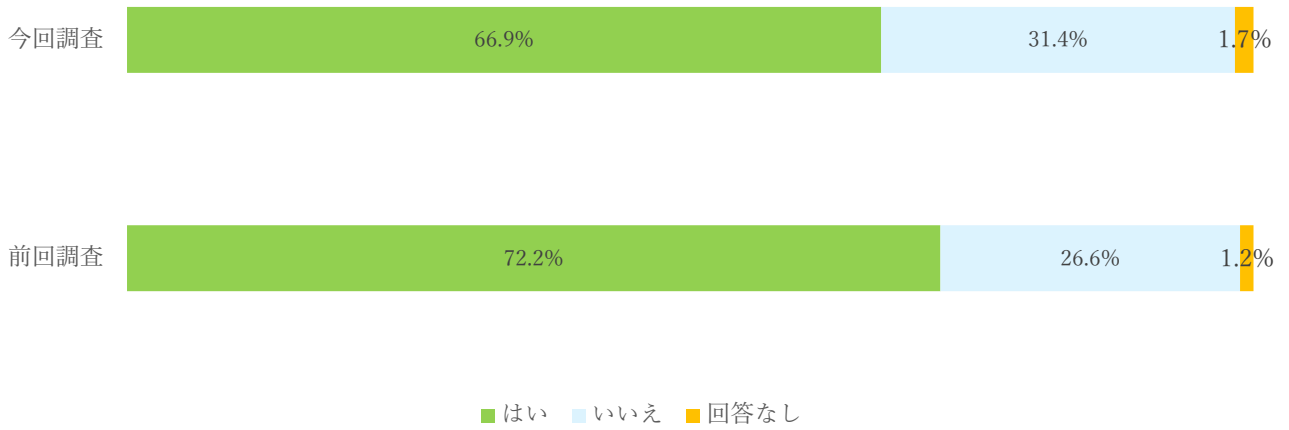
栄養バランスのとれた食事を1日2回以上心がけている人は、93.6%となっており、一般を大きく上回っています。

1日2回以上栄養バランスのとれた食事を心がけているか

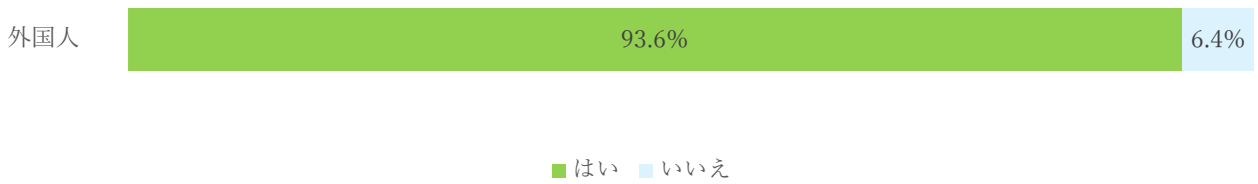
【一般】



(前回調査との比較)



【外国人】



■朝食を食べている人の割合

一般 . . . 80.7%

小中学生 . . . 83.8%

高校生 . . . 65.3%

外国人 . . . 53.2%

【一般】

朝食の習慣では、「ほぼ毎日食べている」が80.7%となっています。

性別では、女性に比べ男性で「ほとんど食べない」と回答する人が多くなっています。

性・年代別では、「ほとんど食べない」や「週に2~3日食べる」との回答は、20~40歳代の男性が他の年代より多く、20歳代の女性では3割を超えており、働き盛りの男性や若い女性で朝食の欠食が多い状況がうかがえます。

(前回調査との比較)

「ほぼ毎日食べている」との回答は、前回調査から減少し、「週に4~5日食べる」「週に2~3日食べる」「ほとんど食べない」との回答が増加しています。

【小中学生】

朝ごはんの習慣では、「毎日食べている」が小学5年生で85.6%、中学2年生で81.9%となっています。

学年別では、朝ごはんを『食べない』（週に1日でも食べないことがある）割合は、小学5年生に比べ中学2年生で多くなっています。

性・学年別でみると、『食べない』割合は、男女ともに中学2年生で多くなっています。

(前回調査との比較)

前回調査と比較すると、小学5年生・中学2年生ともに「毎日食べている」との回答は上昇しています。

【高校生】

朝食の習慣では、「毎日食べている」が65.3%となっており、小・中学生と比較すると、朝食欠食率は高くなっています。

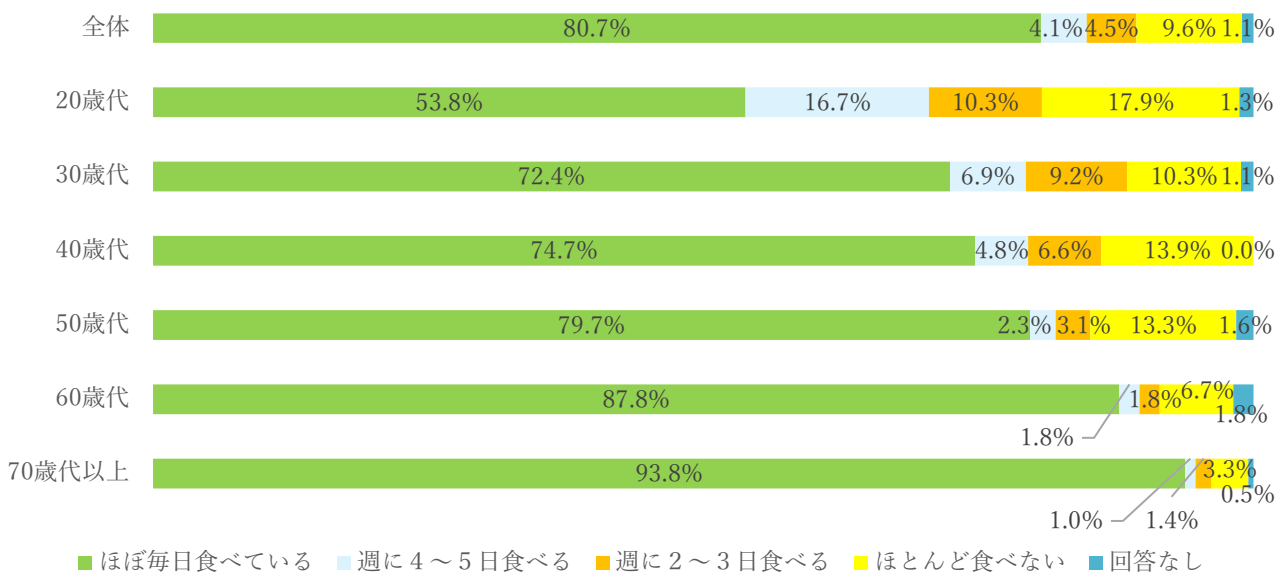
性・学年別でみると、『食べない』割合は、男子で多くなっています。

【外国人】

「ほぼ毎日食べている」との回答は、53.2%となっており、一般と比較すると、欠食率は高くなっています。

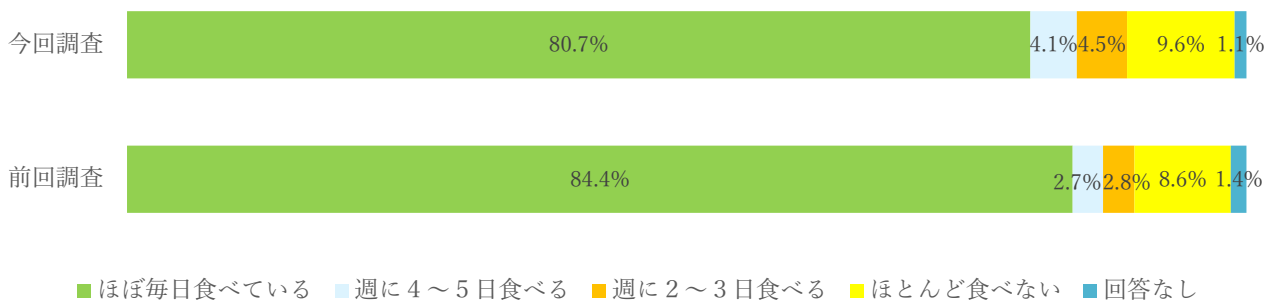
朝食を食べているか

【一般】

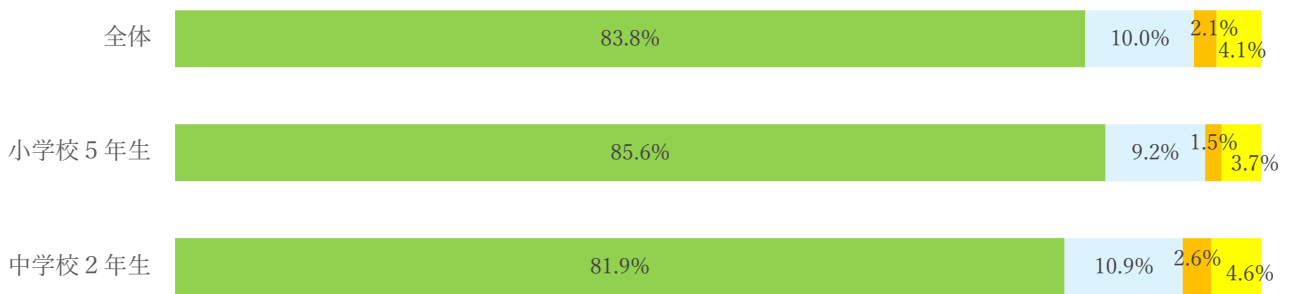


		回答者数	ほぼ毎日食べる	週に4~5日食べる	週に2~3日食べる	ほとんど食べない	回答なし
全体		844人	80.7%	4.1%	4.5%	9.6%	1.1%
性別	男性	332人	75.9%	4.8%	5.7%	11.7%	1.8%
	女性	406人	84.5%	3.7%	3.7%	7.9%	0.2%
男性	20歳代	31人	54.8%	19.4%	12.9%	9.7%	3.2%
	30歳代	37人	59.5%	8.1%	16.2%	13.5%	2.7%
	40歳代	52人	67.3%	5.8%	7.7%	19.2%	0.0%
	50歳代	60人	73.3%	3.3%	5.0%	16.7%	1.7%
	60歳代	66人	81.8%	3.0%	3.0%	9.1%	3.0%
	70歳代以上	86人	93.0%	0.0%	0.0%	5.8%	1.2%
女性	20歳代	41人	56.1%	9.8%	9.8%	24.4%	0.0%
	30歳代	50人	82.0%	6.0%	4.0%	8.0%	0.0%
	40歳代	90人	80.0%	5.6%	5.6%	8.9%	0.0%
	50歳代	55人	87.3%	1.8%	1.8%	7.3%	1.8%
	60歳代	83人	92.8%	1.2%	1.2%	4.8%	0.0%
	70歳代以上	84人	94.0%	1.2%	2.4%	2.4%	0.0%

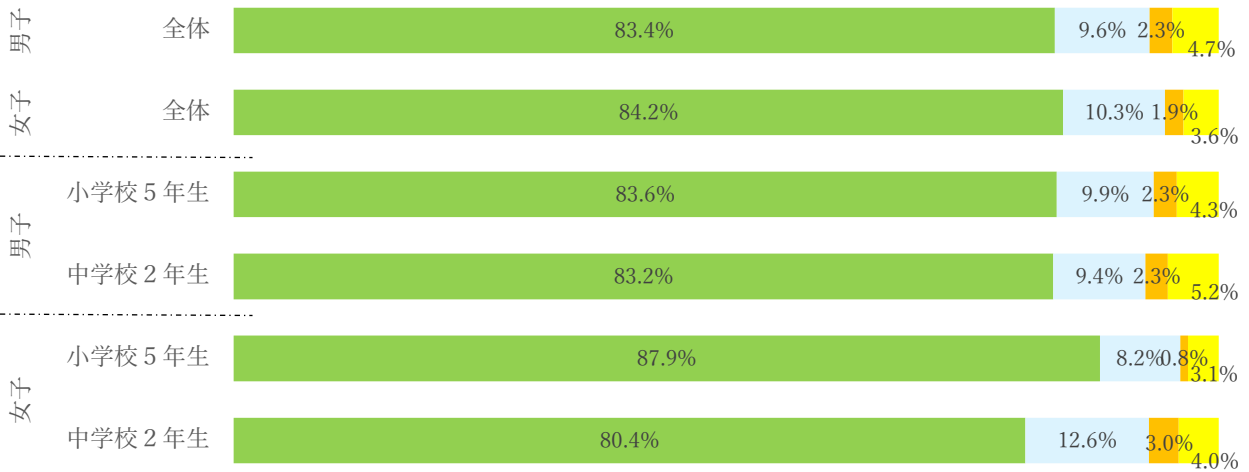
(前回調査との比較)



【小中学生】

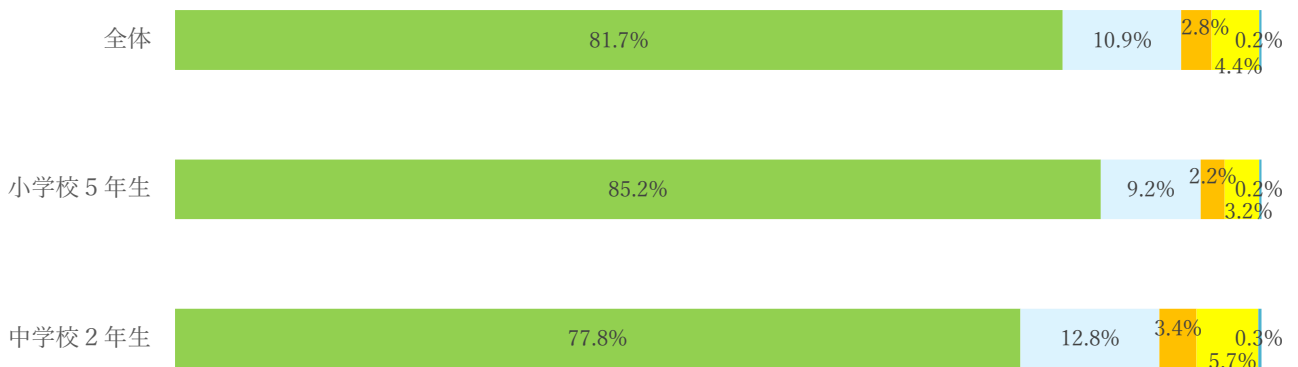


■ 毎日食べている
 ■ 1週間に1～2日 食べないことがある
 ■ 1週間に3～4日 食べないことがある
 ■ 食べないことが多い



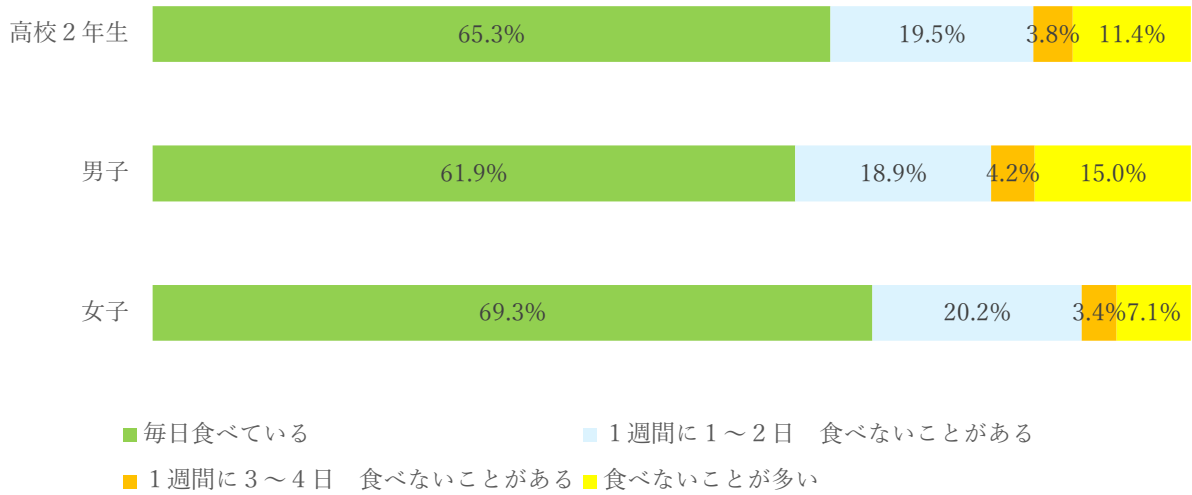
■ 毎日食べている
 ■ 1週間に1～2日 食べないことがある
 ■ 1週間に3～4日 食べないことがある
 ■ 食べないことが多い

(前回調査)



■ 毎日食べている
 ■ 1週間に1～2日 食べないことがある
 ■ 1週間に3～4日 食べないことがある
 ■ 食べないことが多い
 ■ 無回答

【高校生】



【外国人】



■週に1回以上家族や友人と食事をする人の割合

一般 . . . 86.4%

外国人 . . . 95.7%

【一般】

家族、友人との食事状況は、「毎食」が35.7%で最も多く、週1回以上家族や友人と食事をしている人は、86.4%となっています。

年代別では、30歳代以上では「毎食」、20歳代では「週1~3回」との回答が最も多くなっています。また、特に40歳代では、週1回以上家族や友人と食事をしている人は、95.8%となっており他の年代を上回っています。

(前回調査との比較)

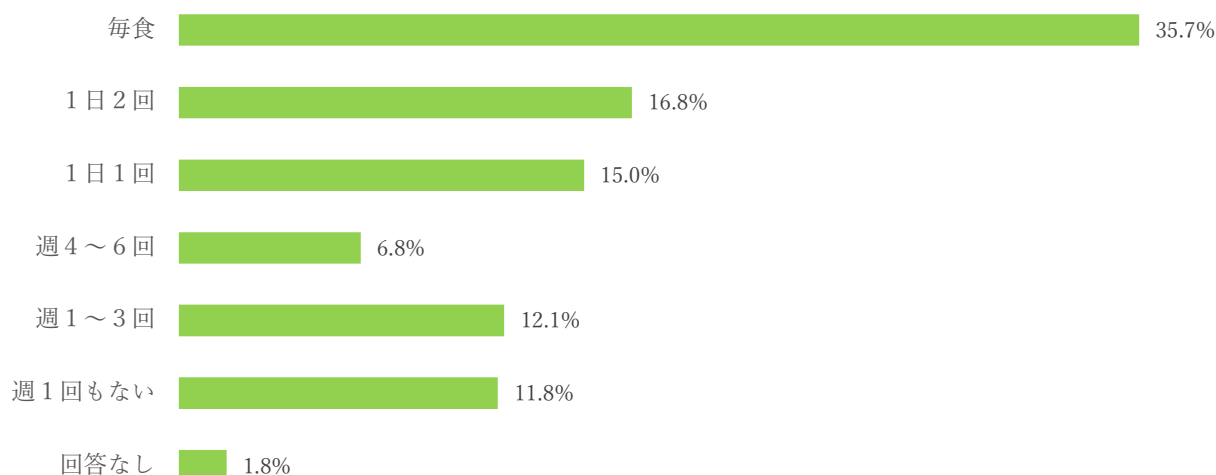
前回調査と比較すると、家族や友人との食事状況は、「週1回もない」との回答が増加しています。

【外国人】

週1回以上家族や友人と食事をしている人は、95.7%となっており、一般より高い割合となっています。

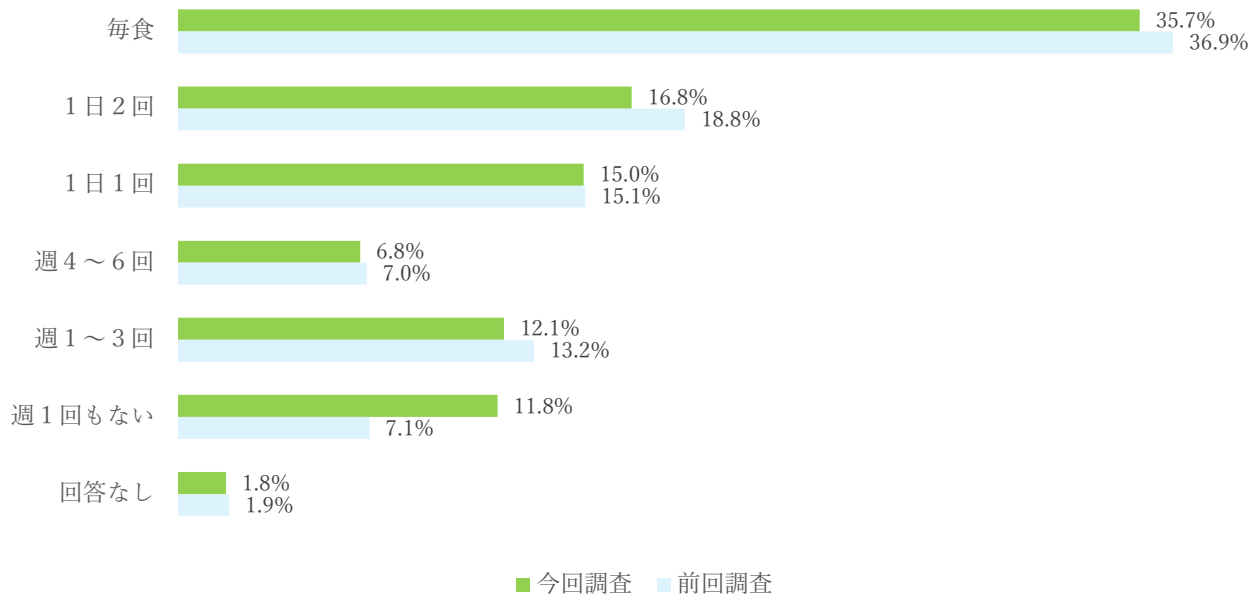
家族や友人と一緒に食事をする頻度

【一般】

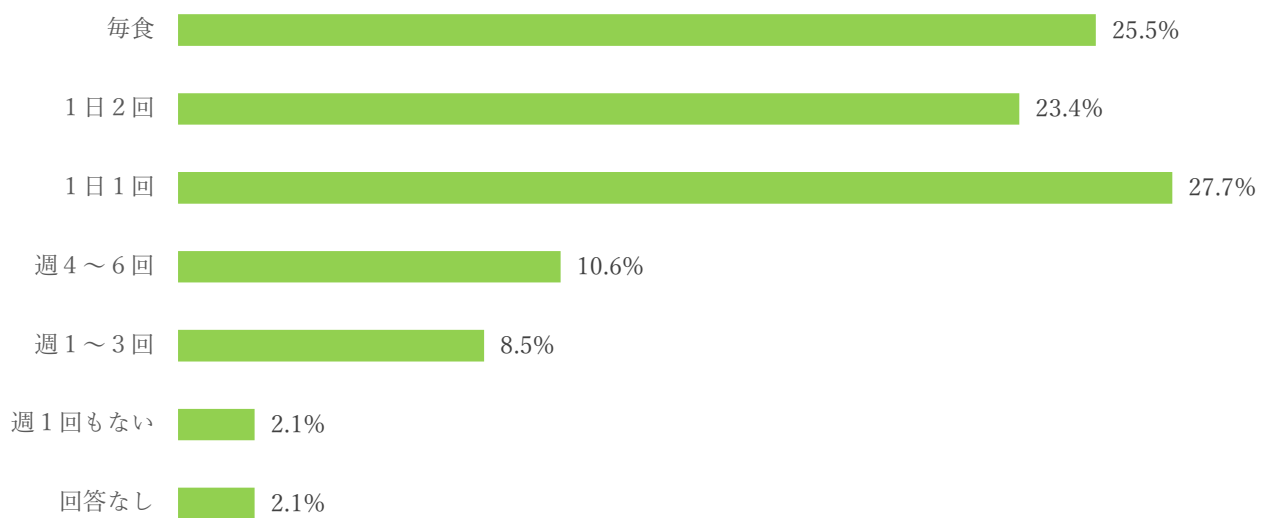


		回答者数	毎食	1日2回	1日1回	週4～6回	週1～3回	週1回もない	回答なし
全体		844人	35.7%	16.8%	15.0%	6.8%	12.1%	11.8%	1.8%
年代	20歳代	78人	17.9%	11.5%	17.9%	14.1%	20.5%	15.4%	2.6%
	30歳代	87人	34.5%	20.7%	14.9%	6.9%	12.6%	10.3%	0.0%
	40歳代	166人	28.3%	24.7%	20.5%	6.6%	15.7%	4.2%	0.0%
	50歳代	128人	31.3%	16.4%	23.4%	7.8%	10.2%	10.2%	0.8%
	60歳代	164人	42.7%	17.1%	14.0%	7.9%	6.1%	11.6%	0.6%
	70歳代以上	209人	45.5%	11.5%	6.2%	2.4%	11.5%	17.7%	5.3%

(前回調査との比較)



【外国人】



(3) 安全・安心な食の環境づくり

■食品を購入する際、栄養成分表示を参考にしている人の割合

一般・・・53.5%
外国人・・・76.6%

【一般】

食品購入時に栄養成分表示を参考にしているかについては、「参考にしている」(15.3%)と「ときどき参考にしている」(38.2%)を合わせた『参考にしている』が53.5%となっています。

年代別では、30歳代で『参考にしている』割合が58.6%となっており、他の年代を上回っています。

(前回調査との比較)

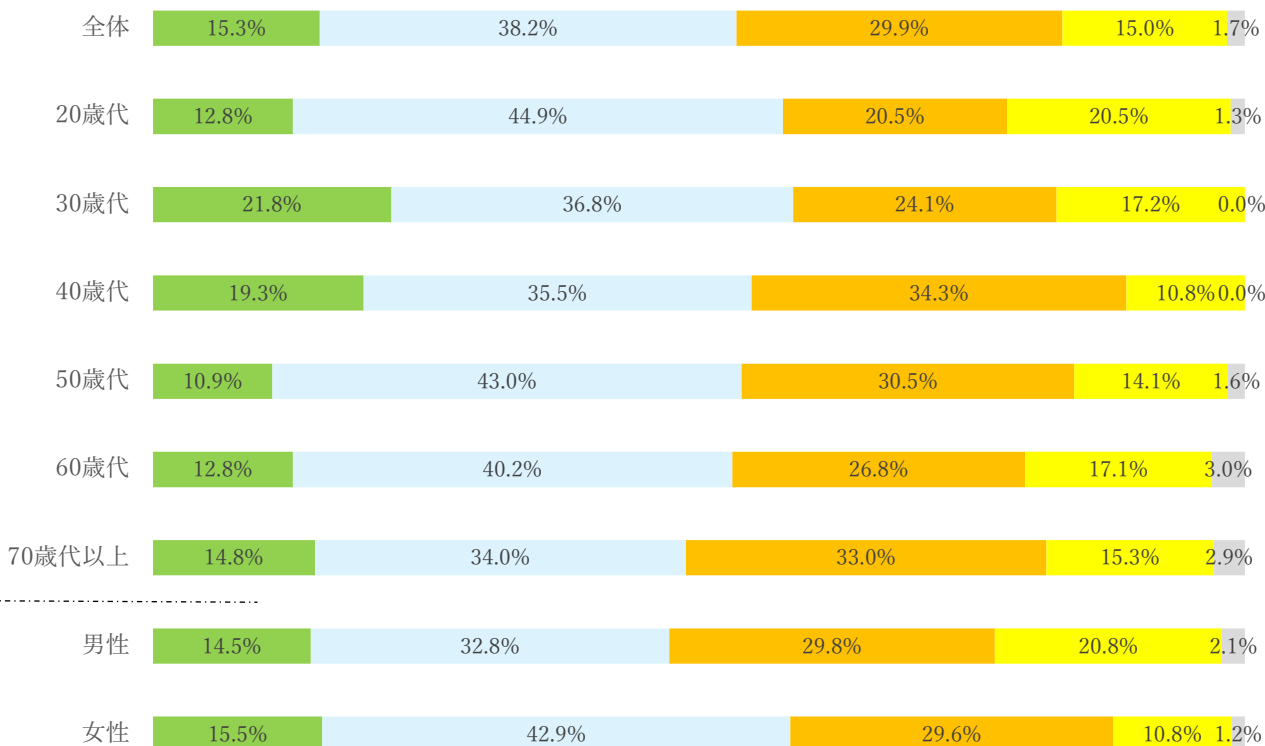
食品購入時に栄養成分表示を『参考にしている』割合は、前回調査から横ばいとなっています。

【外国人】

選択肢が異なるため、単純に比較はできませんが「参考にしている」(76.6%)は一般より高い割合となっており、参考にしている人が多くなっています。

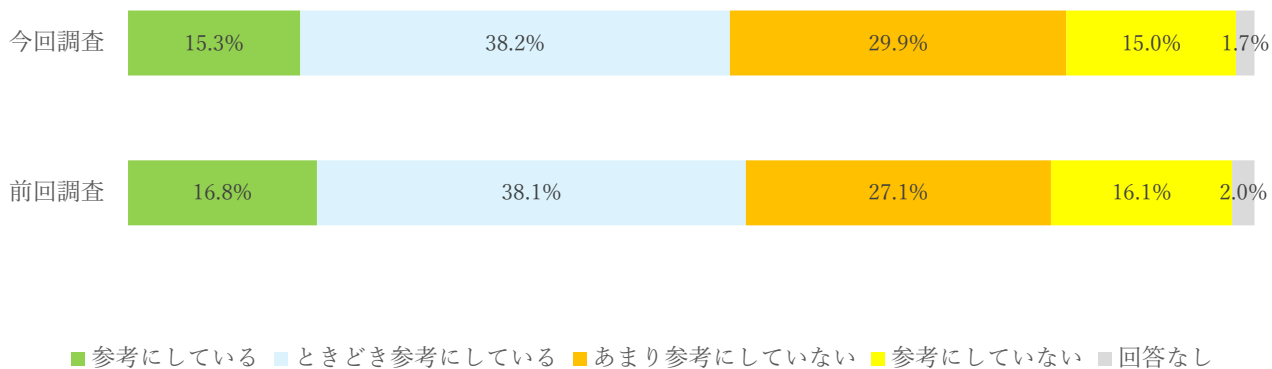
食品購入時に栄養成分表示を参考にしているか

【一般】



■ 参考にしている ■ ときどき参考にしていない ■ あまり参考にしていない ■ 参考にしていない ■ 回答なし

(前回調査との比較)



【外国人】



■食べ残しなどを減らす努力をしている人の割合

一般・・・51.2%

外国人・・・87.2%

【一般】

食品を買いすぎない、作りすぎないなど食べ残しを減らす努力をしている人は、51.2%となっています。

(前回調査との比較)

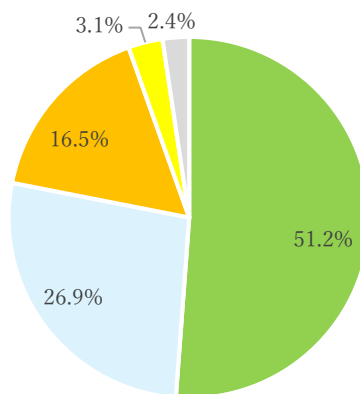
食べ残しを減らす努力をしている人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。

【外国人】

選択肢が異なるため、単純に比較はできませんが「している」(87.2%)は一般より高い割合となっており、環境へ配慮している人が多くなっています。

食べ残しを減らす努力をしているか

【一般】



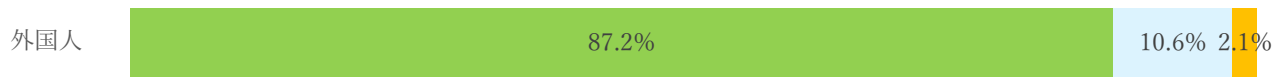
■ している ■ ときどきしている ■ 気にかけているが、なかなかできていない ■ していない ■ 回答なし

(前回調査との比較)



■ している ■ ときどきしている ■ 気にかけているが、なかなかできていない ■ していない ■ 回答なし

【外国人】



■ している ■ していない ■ 回答なし

(4) 地域の食文化の魅力発信

■成田市の地場産物（さつまいもや米など）の認知度

一般	・・・62.7%
小中学生	・・・77.8%
高校生	・・・39.7%
外国人	・・・72.3%

【一般】

成田市の地場産物を知っている人は、62.7%となっています。

年代別では、70歳代以上で知っている人の割合が最も多くなっている一方、20歳代では知っている人の割合が最も少なくなっています。

（前回調査との比較）

成田市の地場産物を「知っている」との回答は、大幅に増加しており、認知度は高まっています。

【小中学生】

成田市の有名な農産物については、「知っている」との回答が小学5年生で81.1%、中学2年生で74.3%となっています。

（前回調査との比較）

前回調査と比較すると、「知っている」との回答が小学5年生・中学2年生ともに、大幅に増加しており、成田市の有名な農産物の認知度が高まっています。

【高校生】

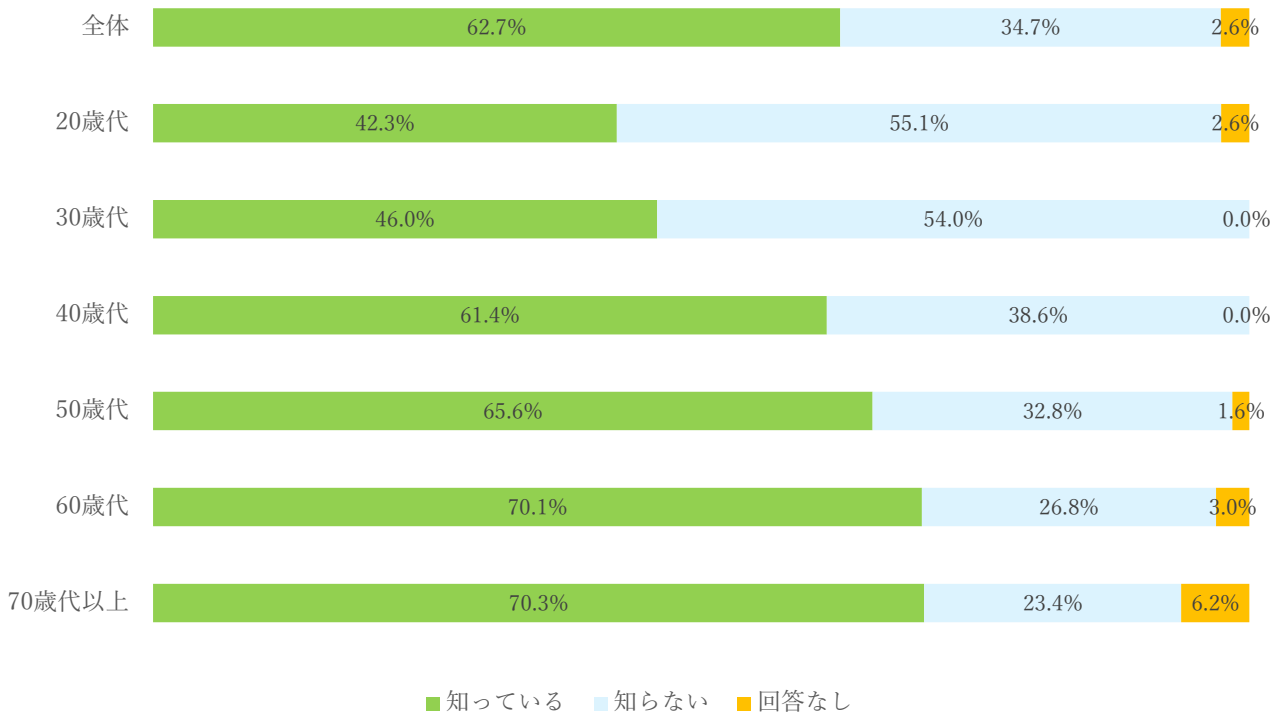
成田市の有名な農産物を知っている人は、39.7%となっており、小学5年生・中学2年生と比較し、低い割合となっています。

【外国人】

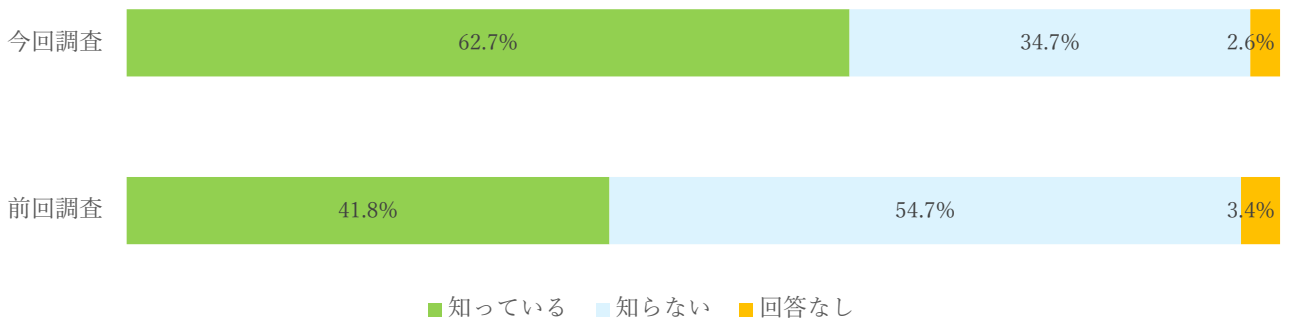
成田市の地場産物を知っている人は、72.3%となっており、一般と比較し、高い割合となっています。

成田市の地場産物を知っているか

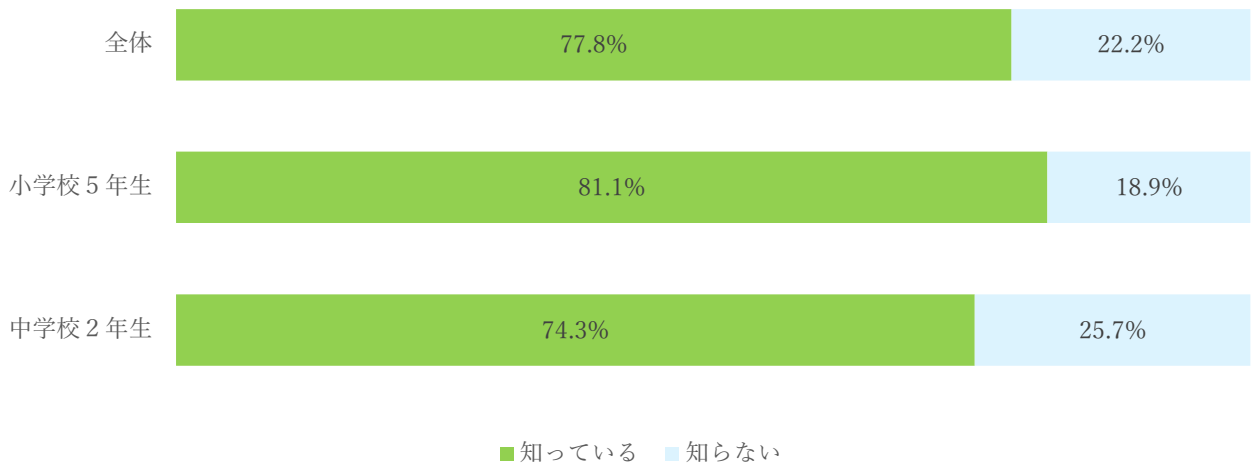
【一般】



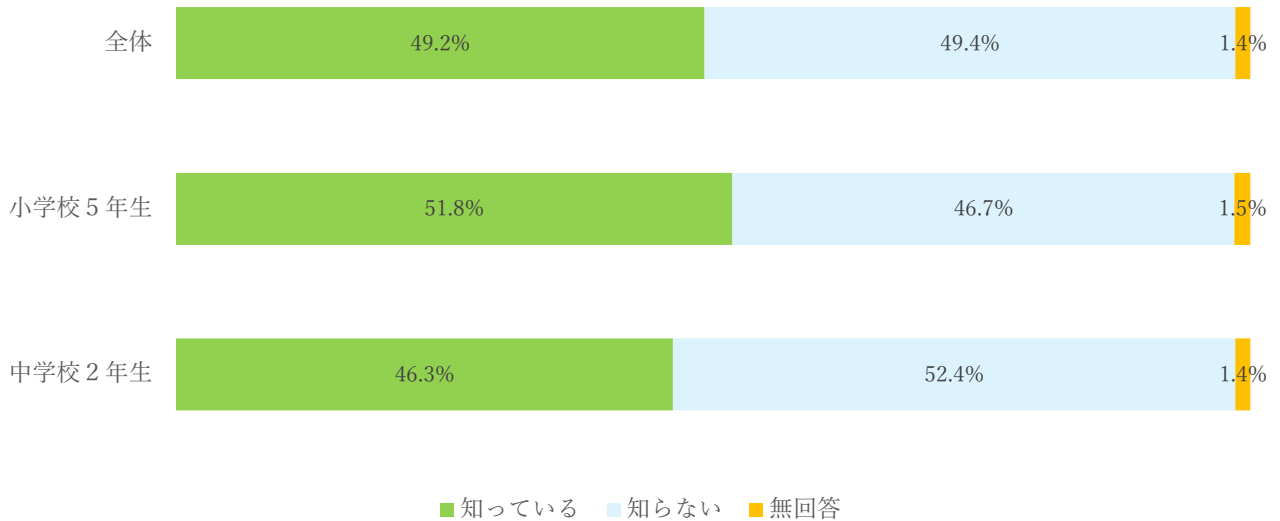
(前回調査との比較)



【小中学生】



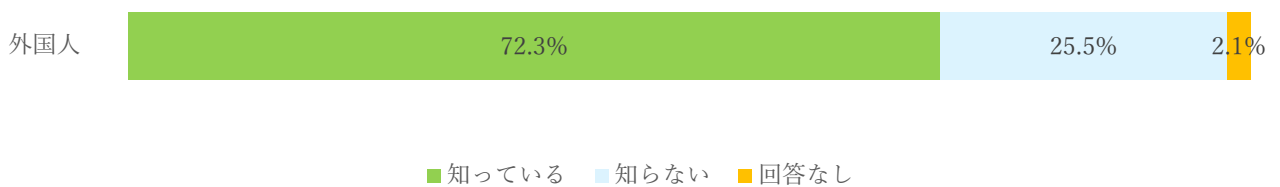
(前回調査)



【高校生】



【外国人】



■成田市の郷土料理（昔からある料理）の認知度

一般 . . . 15.0%

外国人 . . . 70.2%

【一般】

成田市の郷土料理を知っている人は、15.0%となっています。

また、具体的な郷土料理としては、「うなぎ料理（うなぎの蒲焼き、うなぎ重、うなぎ丼）」（74人）、「鉄砲漬け」（33人）、「太巻き寿司、祭り寿司、飾り寿司」（26人）などの料理が上位にあげられています。

（前回調査との比較）

成田市の郷土料理を知っている人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。

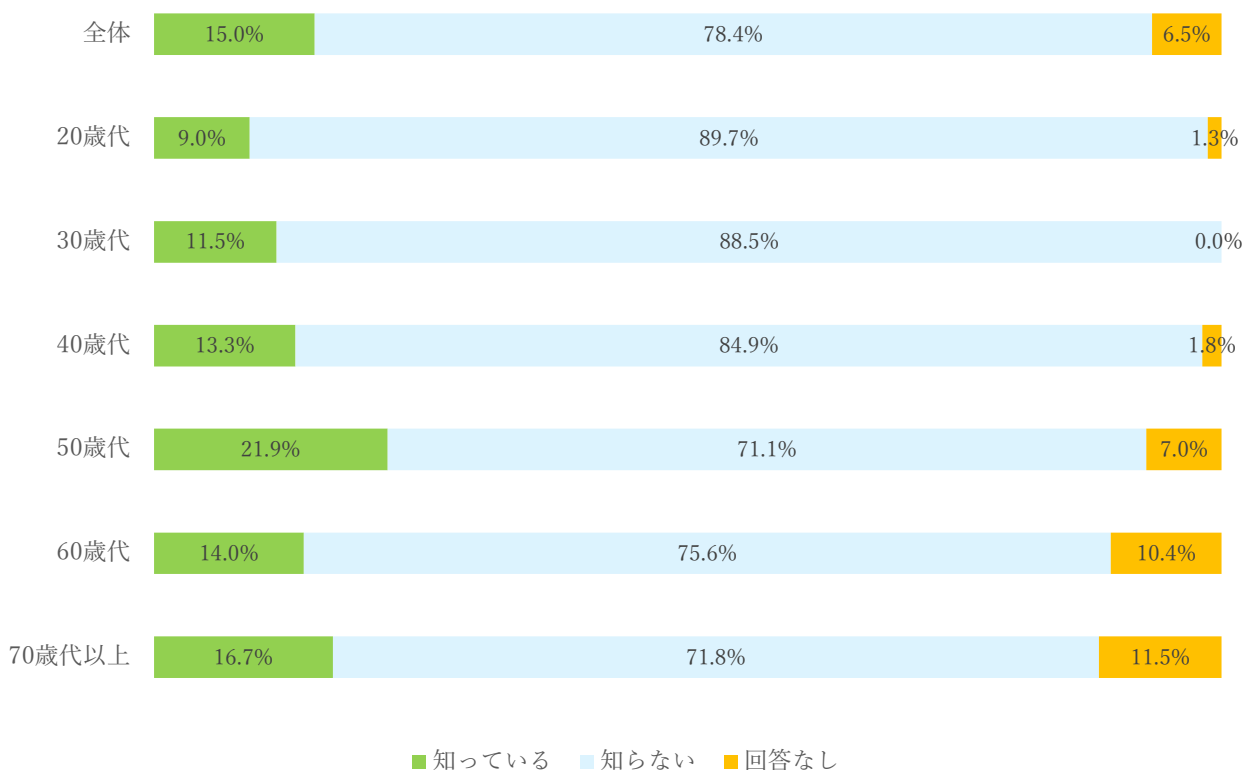
【外国人】

成田市の郷土料理を知っている人は、70.2%となっており、一般と比較し、高い割合となっています。

また、具体的な郷土料理としては、「うなぎ料理」（31人）、「ようかん」（6人）、「鉄砲漬けなどの漬物」（5人）などの料理が上位にあげられています。

成田市の郷土料理を知っているか

【一般】



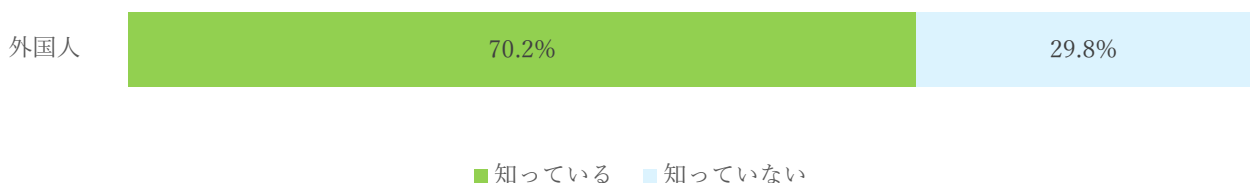
<具体的な郷土料理>

順位	内容	人
第1位	うなぎ料理（うなぎの蒲焼き、うなぎ重、うなぎ丼）	74
第2位	鉄砲漬け	33
第3位	太巻き寿司、祭り寿司、飾り寿司	26
第4位	ようかん・栗ようかん	12
第5位	川魚料理（川魚の甘露煮、鯉こく、鯉の洗い）	7
第6位	ピーナッツ味噌	6
第6位	佃煮	6
第8位	きんぴら	4
第8位	大浦ごぼうの煮付	4
第8位	漬物	4
その他	（みつめの）ぼたもち、芋の煮っころがし、坊入 等	—

（前回調査との比較）



【外国人】



<具体的な郷土料理>

順位	内容	人
第1位	うなぎ料理	31
第2位	ようかん	6
第3位	鉄砲漬けなどの漬物	5
その他	黒饅頭、栗、ブルーベリー、れんこん、さつまいもなど	12

(5) 市に期待することについて

■食育について、市に期待することは

【一般】

市に期待する食育に関する施策では、「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」(45.5%)が最も多く、次いで「学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす」(36.8%)、「学校給食の充実を図る」(36.6%)が主な回答となっています。

年代別では、20～30歳代で「学校給食の充実を図る」、40歳代で「学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす」、50歳代以上で「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」との回答が最も多くなっています。(20歳代は、「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」も同率。)

(前回調査との比較)

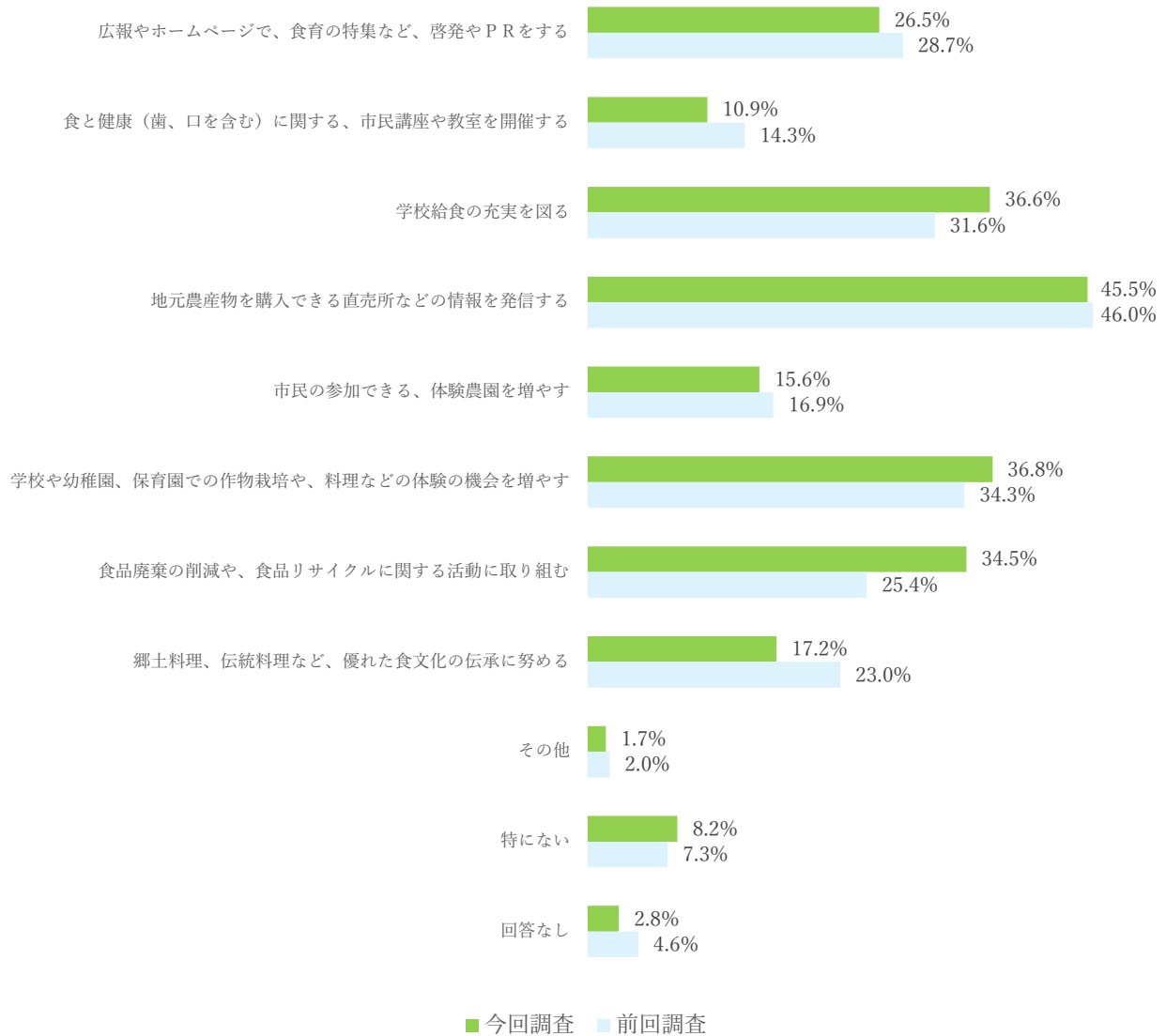
「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」、次いで「学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす」、「学校給食の充実を図る」という上位3項目は変わりません。

食育に関して市に期待すること（複数回答）

【一般】

	回答者数	広報やホームページで、食育の特集など、啓発やPRをする	食と健康（歯、口を含む）に関する、市民講座や教室を開催する	学校給食の充実を図る	地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する	市民の参加できる、体験農園を増やす	学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす	食品廃棄の削減や、食品リサイクルに関する活動に取り組む	郷土料理、伝統料理など、優れた食文化の伝承に努める	その他	特になし	回答なし
全体	844人	26.5%	10.9%	36.6%	45.5%	15.6%	36.8%	34.5%	17.2%	1.7%	8.2%	2.8%
年代	20歳代	78人	17.9%	12.8%	33.3%	15.4%	32.1%	28.2%	24.4%	0.0%	15.4%	1.3%
	30歳代	87人	11.5%	8.0%	60.9%	19.5%	56.3%	40.2%	14.9%	0.0%	4.6%	0.0%
	40歳代	166人	13.9%	4.8%	53.6%	21.1%	56.6%	39.8%	17.5%	3.6%	5.4%	0.0%
	50歳代	128人	28.1%	13.3%	30.5%	20.3%	34.4%	32.8%	17.2%	3.1%	5.5%	4.7%
	60歳代	164人	36.0%	13.4%	30.5%	12.8%	29.9%	32.3%	15.2%	1.2%	7.3%	2.4%
	70歳代以上	209人	37.8%	12.9%	22.5%	9.1%	22.5%	34.0%	17.2%	1.0%	11.5%	6.2%

(前回調査との比較)



3 ワークショップの開催

10 歳代後半から 20 歳代前半の若い世代の食についての意識を把握するため、市内大学のご協力を得てワークショップを開催しました。また、空港を有する本市の立地や特色を生かし、新たな意見を発掘するため、市内民間企業のご協力を得てワークショップを開催しました。

①国際医療福祉大学×成田市 ワークショップ

項目	内容
開催日	令和 4 (2022) 年 7 月 2 日 (土)
開催場所	国際医療福祉大学成田キャンパス WA 棟 2 階 TBL 室
参加者	国際医療福祉大学の学生 46 名、事務局 11 名
テーマ	○年間 570 万トンの食品ロス！どうしたら食品ロスは減るのでしょうか？ ○いもや米！どうしたら成田市の地産地消は進んでいくのでしょうか？ ○食育って知ってる！？デジタル技術を活用して食育を推進するには？ ○早寝早起き朝ごはん！どうしたら朝食習慣は定着するのでしょうか？
方法	参加者は 8 つのグループに分かれ、それぞれのテーマについて、付箋に意見を書き出し、現状や課題、具体的な解決方法などについて話し合いました。 最後に、グループで出された意見に対しドット投票*を行い、内容を確認した後、同一テーマを討論したグループ同士で意見を共有しました。

※ドット投票

全員に丸いシールを同数ずつ渡し、共感する内容や良いと思うアイデアを選び投票する方法。



< 挙げた意見 >

- ・ 可食部を捨てずに食べられるレシピ等を SNS 発信
- ・ (料理教室や農林漁業体験などを) オンラインで体験する
- ・ 学校で食育授業&農家体験
- ・ (食に関するガイドブックなど) 色々な言語の説明を用意

②ANA×成田市 ワークショップ

項目	内容
開催日	令和4(2022)年7月19日(火)
開催場所	ANA 成田スカイセンター
参加者	ANA グループ社員 12名、成田市職員 8名
テーマ	○シフト勤務者の食生活は！？ より良い食事をするにはどうすれば良いのでしょうか？ ○SDGs と食育！ 私たちに出来ることは何でしょうか？
方法	参加者は2つのグループに分かれ、それぞれのテーマについて、付箋に意見を書き出し、現状や課題、具体的な解決方法などについて話し合いました。 最後に、グループで出された意見に対し、ドット投票を行い、内容を確認した後、グループ同士で意見を共有しました。



＜挙げた意見＞

- ・会社が食にフォーカスをあてる
- ・大人だけで参加できる農業体験の実施
- ・コンビニでも栄養がとれるガイドブックの発行
- ・to go box (持ち帰りBOX) の普及
- ・栄養士のレシピを食卓で食べられるようにする

4 今後の課題

第2次計画の課題や食についての状況、食育に関するアンケート結果等を踏まえた、今後の課題や方向性として以下のとおりまとめます。

(1) 第2次計画の課題

第2次計画の達成状況から、市民による望ましい食生活の実践が十分に進んだとはいえない状況です。実践が進まない要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響で、食育に係るイベント等が中止・縮小されたことにより、従前と比較し、食育が普及できなかったことが挙げられます。今後については、各ライフステージにおいて、withコロナ時代に対応した食育の普及・推進が必要になっています。

一方、「食育に関心を持っている人の割合」や「成田市の地場産物の認知度」など、目標は達成していませんが、改善傾向にある指標もあり、引き続き推進をしていく必要があります。

(2) 食を取り巻く国・県の状況

- 人口減少、少子高齢化、世帯構造の変化や中食市場の拡大が進行するとともに、食に関する国民の価値観や暮らしの在り方も多様化し、健全な食生活を実践することが困難な場面も増えてきています。
- 食料自給率（令和3年度）は、カロリーベースで38%、生産額ベースで63%と食料の多くを海外からの輸入に頼っている一方、令和2年度推計で食品ロス522万トンが発生しています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、在宅時間や家族で食を考える機会が増えることで、食を見つめ直す契機となっており、家庭での食育の重要性が高まっています。
- 令和3（2021）年3月に策定された国の「第4次食育推進基本計画」では、「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」「持続可能な食を支える食育の推進」「『新たな日常』やデジタル化に対応した食育の推進」を重点事項に掲げており、相互に連携して総合的に推進していく必要があります。
- 令和4（2022）年3月に策定された県の「第4次千葉県食育推進計画」では、全国有数の農林水産業が盛んな本県の特徴を活かし、「ちばの恵み」を取り入れたバランスのよい食生活の実践による生涯健康で心豊かな人づくりが推進されています。
- 国や県の食育推進計画では、食育の推進は、SDGsの目標達成に寄与するものとして、SDGsの考え方を踏まえた食育の取り組みを位置付けています。

(3) 食をめぐる市民（在学・在勤含む）の動向

①一般市民（20歳以上）の食生活について

■食育

- 食育の認知度は高まっています。
- 食育への関心や実践についても増加傾向にあります。

■食生活

- 朝食の欠食状況は、20歳代の女性の欠食率が高い状況となっています。
- 朝食を食べない理由としては、「時間がない」との回答が多くなっています。
- 栄養バランスのとれた食事を心がけている人は減少しています。また、特に成人の若年層について、栄養面を気にしている人の割合が少なくなっています。
- 週1回も家族や友人と一緒に食事をとっていない人の割合が増加しています。
- 食べ残しを減らす努力をしている人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。
- 食品を購入するとき、栄養成分表示を参考にしている人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。
- 食品を選ぶときに気をつけていることは、「賞味（消費）期限」が最も関心の高い項目となっています。

■地産地消・食文化

- 地産地消を知っていて実践している人は、前回調査に比べ増加しています。
- 地場産物の認知度は前回調査時と比較すると、大幅に高まっており、関心の高さがうかがえます。一方、郷土料理の認知度については、ほぼ横ばいとなっており、まだまだ低い状況にあります。
- 市に期待することとして、「地元農産物を購入できる直売所などの情報発信」が求められています。

■農業体験

- 農業体験をしたことがある人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。また、農業体験がない人の今後の体験希望では、「してみたいとは思わない」との回答が多くなっています。
- 子ども達の食育を進めるうえで、農業に関する体験が必要だと思っている人の割合は増加しています。

②小・中学生（義務教育学校含む）の食生活について

■食育

○食育の認知度は改善傾向にありますが、まだまだ低い状況にあります。

■食生活

○朝食の摂取状況は、小学生では欠食率が高まっていますが、全体では改善傾向にあります。

○朝食を食べない理由としては、「時間がないから」との回答が多くなっています。

■地産地消・食文化

○有名な農産物の認知度は前回調査時と比較すると、大幅に高まっており、関心の高さを伺えます。

■農業体験

○学校以外で体験したことのある農業体験では、「いもほり」「野菜のしゅうかく」「もちつき」との回答が上位にあげられている一方、「したことがない」との回答が増加傾向にあります。

③高校生の食生活について

■食育

○食育の認知度は、小中学生と比較すると、低い状況にあります。

■食生活

○朝食の摂取状況では、小中学生と比較すると、欠食率は高くなっています。

○朝食を食べない理由としては、「時間がないから」との回答が多くなっています。

■地産地消・食文化

○有名な農産物の認知度は、小中学生を大幅に下回ることから、興味関心を高める必要があります。

■農業体験

○学校以外で体験したことのある農業体験では、小中学生と同様に「芋掘り」「野菜の収穫」「餅つき」との回答が上位にあげられています。また、「したことがない」割合は、小中学生と比較し高い状況にあります。

④外国人（ALT 関係者）の食生活について

■食育

- 食育の認知度及び関心を持っている人は、一般を下回っています。また、食育を実践している人についても、認知度や関心を持っている人に比例して一般よりも低い傾向にあります。

■食生活

- 朝食の摂取状況は、一般と比較すると欠食率が高くなっています。
- 栄養基準などを参考にしている人は一般を大きく上回っており、健康に配慮していることがうかがえます。
- 週 1 回以上家族や友人と食事をしている人は、一般を上回っており、共食の意識が高いことがうかがえます。
- 食べ残しを減らす努力をしている人は、一般を上回っており、環境に配慮していることがうかがえます。
- 食品を購入するとき栄養成分表示を参考にしている人は、一般を上回っており、栄養バランスのとれた食事を心がけていることがうかがえます。

■地産地消・食文化

- 成田市の地場産物の認知度は、一般より高い割合となっています。

(4) 今後の課題や方向性

■食育

- 食育の認知度や関心は高まっていますが、実践に向けた行動を促すことが必要となっています。また、特に 20 歳代で食育に関心がない人が多く、若年層に向けた食育の周知・啓発が必要になっています。
- 様々な世代に対して食育を推進するためには、with コロナ時代における多様な暮らしに応じた施策を、民間企業や大学等と連携を図り展開していく必要があります。

■食生活

- 栄養バランスのとれた食生活の実践に向けた意識付けが必要となっています。
- 朝食の欠食率については、国・県と比較すると、本市の状況は良好です。
欠食の理由としては「時間がない」が最も挙げられていることから、朝食の習慣化や重要性を継続して示していく必要があります。
- 家族や友人とともに食事をとることで、コミュニケーションを図り、豊かな心が育まれるよう、共食を推進していく必要があります。
- 食品ロスなどを減らし、持続可能な食を支える食育を推進していく必要があります。

■地産地消・食文化

- 地元農産物を購入できる直売所などの情報発信のさらなる強化が必要になっています。
- 地場産物の消費による食料の輸送に伴い環境負荷の低減や地域の活性化は、持続可能な食の実現につながることから、未来を担う子どもたちへのさらなる推進が求められます。
- 地場産物の認知度は、地産地消ガイドマップの配布や市場による PR、農業体験や教育活動の成果等により上昇しているものを引き続き高めていくとともに、郷土料理に触れる機会を創出し、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等の継承が求められています。

■農業体験

- 食育への意識を高めるためにも、農産物を育て、収穫する喜びを知ることが重要であり、体験機会を充実していく必要があります。
- 様々な学習や食に関する体験活動を通じて、消費者と生産者との交流を図り、産地や生産者への意識を養う必要があります。

■その他

- 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、デジタルツールやインターネットを活用し、「新しい生活様式」に対応した食育の推進が必要となっています。
- 国際都市である本市の状況を踏まえ、多文化共生の観点からも食育を発信していくことが求められています。
- 家庭・地域社会・行政などの多様な参画主体の連携が引き続き必要となっています。
- 近年、台風や豪雨等による大規模災害が発生しており、災害時の食の備えの重要性について、食育の観点から必要な知識の普及啓発が求められています。

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

食は、健康で元気に生きるための基本となるものであり、からだの健康だけでなく、暮らしの質や生きがいといった心の健康にも関わるものであり、市民の暮らしを豊かにする大切なもの。

次世代を担う子どもたちを含む、一人一人の市民が、望ましい食生活や正しい知識を身につけ、生涯にわたって元気に暮らせるまちを目指し、基本理念を以下のように定めます。

「食が育む元気なからだ
食でつながる豊かな心」



2 基本目標

基本理念の「食が育む元気なからだ 食でつながる豊かな心」を実現するため、4つの基本目標を設定し計画を推進します。

また、基本理念の実現とともに、SDGsの目標達成に向けて、食育に関する様々な取り組みを通じ、市民の食育への関心を高めます。



目標 1 市民への食育の普及

アンケート結果をみると、食育に関する認知度とともに、食育への関心は高まっていますが、「忙しい」などの理由で食育に取り組めていない現状があります。

子どもや保護者を中心に、市民一人一人が食や食育の必要性和重要性をしっかりと理解し、関心を持てるよう、それぞれのライフステージに応じた意識づくりを進めるとともに、具体的な行動を始められるような普及支援に努めます。

特に、新型コロナウイルス感染症の影響により、食を取り巻く状況は大きく変化しており、「新たな日常」においても各世代に対して食育を着実に実施できるよう、デジタル化に対応した食育を推進します。

また、市民や子どもたちが食べ物や食に対する感謝の気持ちをもてるよう、野菜の収穫等の農業体験や調理などの体験機会を充実します。



目標 2 健全な食生活で、元気なからだと心を育む

市民が健康で元気に生活できるようにするためには、生活習慣の中でも健全な食生活が重要です。食と体のつながりを理解し、生活習慣病の予防及び改善に取り組み、健康寿命の延伸につながるよう、食育を推進します。

特に、「早寝・早起き・朝ごはん」運動に代表されるように、子どもの頃に正しい食習慣と生活リズムを身につけることができるよう、家庭への積極的な働きかけや支援に力を入れるとともに、学校・幼稚園・保育所における成長に応じた食に関わる体験や給食を通じて、子どもの健やかな発育を促すように努めます。

また、食に対する感謝の気持ちをこめる食事マナーの向上、家族や友人等と食卓を囲んで、共に食事を取りながらコミュニケーションを図る共食を推進します。



目標 3 安全・安心な食の環境づくり

食の安全・安心を求める声が高まっています。食に関する様々な情報が氾濫する中で、一人一人が健全な食生活を営むためには、食品の安全性をはじめとして、食生活や健康に関する正しい知識を持ち、安全・安心な食べ物を選ぶ力を身に付けていくことが大切です。そのため、安全・安心な消費生活ができるよう、啓発活動や情報提供を行います。

また、食育においても食品ロスの削減や災害時を意識した食育の推進など、持続的な食を推進するため環境保全活動と関連付けてエコライフに取り組みます。

市内では「ちば食育ボランティア」や「ちばエコ農産物販売協力店舗」、「ちば食育サポート企業」がそれぞれ活動をしており、こうしたボランティアや企業、大学などと連携し、食育を推進していきます。



目標 4 地域の食文化の魅力発信

本市の特性である、生産地と大消費地が近接していることや、成田国際空港を擁し、外国人と交流しやすい環境にあることなどを活かしながら、食をテーマにした観光交流など食を楽しむ機会や学ぶ機会を創出することで、本市が誇る豊富な食資源の活用やブランド化を積極的に推進します。

加えて、消費者のニーズに合った農業生産と、生産された農作物を地域で消費する活動を通じて、農業生産者と消費者が“顔が見え、話しができる”関係に結びつけるよう努めます。これにより、消費者が農産物や食品を選ぶ際、産地や生産者を意識するよう関心を高めるとともに、農業生産者とそれに関連する産業の活性化を図ります。

また、近年、核家族化の進展や地域のつながりの希薄化、生活様式の多様化により、地場産物を生かした郷土料理や食事の際の作法等、優れた伝統的な食文化が十分に承継されず、その特色が失われつつあります。

このため、地域の食材を生かし、家庭で受け継がれてきた郷土料理や伝統料理、箸使い等の食べ方・作法を地域や次世代へ継承し、地域の食文化を守るとともに、地域の振興を図ります。

3 目標値一覧

施策を推進していくにあたり、成果や達成度を指標により把握できるよう、目標値を設定します。

目標1 市民への食育の普及			
指標	対象	現状値 (R4)	目標値 (R9)
食育に関心を持っている人の割合	20歳以上	78.4%	90%以上
食育を実践している人の割合	20歳以上	56.0%	60%以上

目標2 健全な食生活で、元気なからだと心を育む			
指標	対象	現状値 (R4)	目標値 (R9)
主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上、心がけている人の割合	20歳以上	66.9%	80%以上
朝食を欠食する人の割合	小学5年生	3.7%	0%を目指す
	中学2年生	4.6%	0%を目指す
	高校2年生	11.4%	9%以下
	20歳代男性	9.7%	9%以下
	20歳代女性	24.4%	9%以下
	30歳代男性	13.5%	8%以下
	30歳代女性	8.0%	3%以下
週に1回以上家族や友人と共食をする人の割合	20歳以上	86.4%	95%以上
	60歳代	87.8%	95%以上
栄養教諭等による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数※	—	月5回	月12回以上
学校給食における地場産物を使用する割合※ (金額ベース)	—	78.5%	現状値より向上

※「千産千消デー実施報告」（千葉県）の平均数値を記載

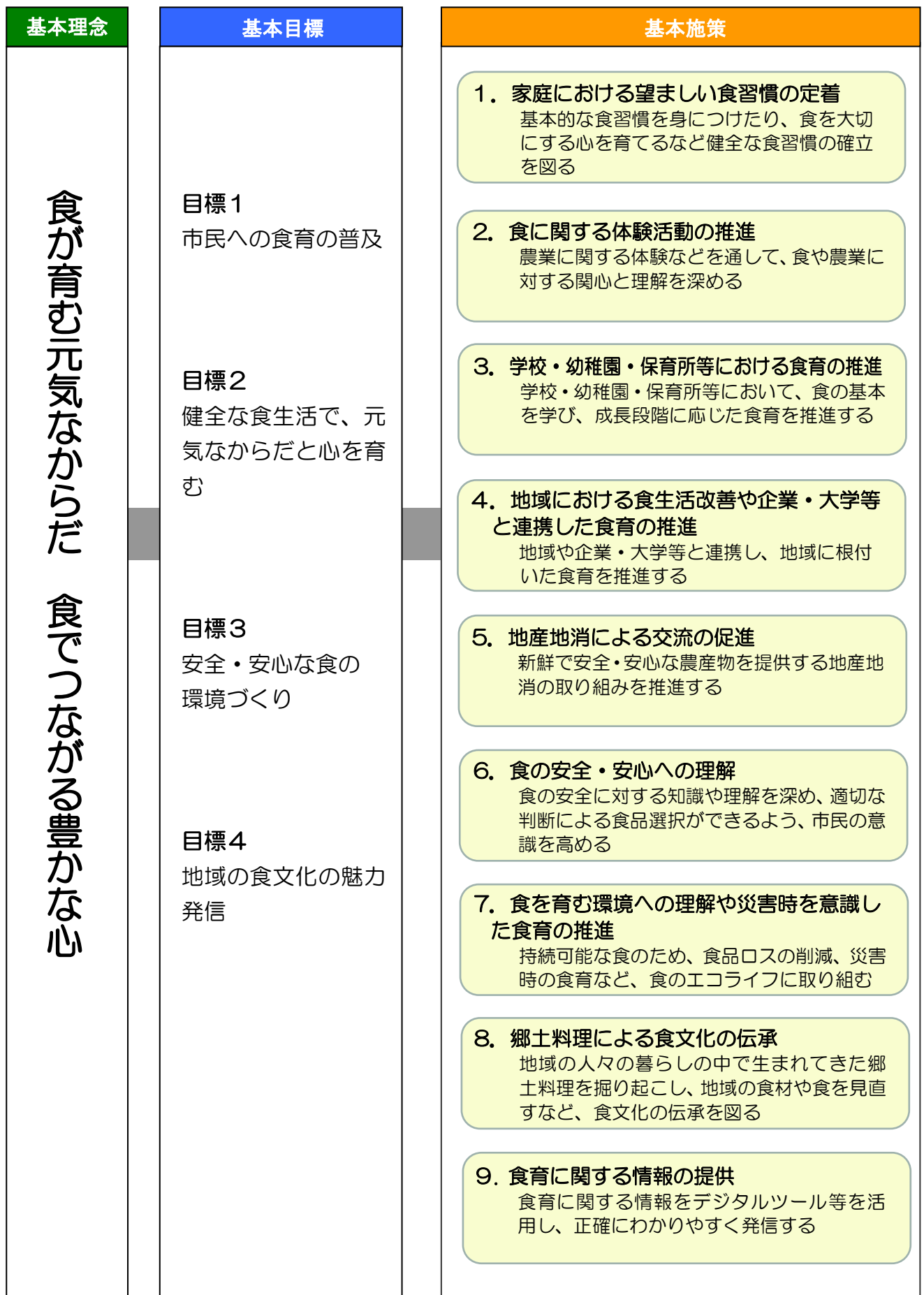
目標3 安全・安心な食の環境づくり			
指標	対象	現状値 (R4)	目標値 (R9)
食品を購入する際、栄養成分表示を参考にしている人の割合	20歳以上男性	47.3%	60%以上
	20歳以上女性	58.4%	70%以上
食品ロス削減のために何らかの取り組みをしている人の割合	20歳以上	51.2%	70%以上
有機農産物を購入する人の割合	20歳以上	9.0%*	現状値より向上

※食品選びで気をつけていることで、「有機栽培、無農薬栽培」を選択した人の割合

資料：食育に関するアンケート調査報告書 令和4（2022）年6月 成田市

目標4 地域の食文化の魅力発信			
指標	対象	現状値 (R4)	目標値 (R9)
成田市の地場産物の認知度	小学5年生 中学2年生	77.8%	80%以上
	高校2年生	39.7%	70%以上
	20歳以上	62.7%	70%以上
産地や生産者を意識して農林水産物や食品を選ぶ人の割合	20歳以上	—	80%以上
地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている人の割合	20歳以上	—	50%以上

4 体系図



○SDGs の推進

平成 27（2015）年 9 月の国連サミットで採択された国際開発目標である「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」は 17 の目標と 169 のターゲットから成る「SDGs（持続可能な開発目標）」を掲げ、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指しています。そのような中、食育の推進は、国の「SDGs アクションプラン 2021」（令和 2（2020）年 12 月持続可能な開発目標（SDGs）推進本部決定）の中に位置づけられており、SDGs の達成に寄与するものであることから、本計画でも関連する目標について、取り組みの方向を明示していきます。



出典：国際連合広報センター

■SDGs とは

SDGs [エス・ディー・ジーズ] (Sustainable Development Goals、「持続可能な開発目標」) とは、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030 アジェンダ」にて掲げられた、平成28（2016）年から令和12（2030）年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するため、「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「気候変動に具体的な対策を」などの17のゴール（目標）と、その下に169のターゲット（取り組み・手段）、232の指標を掲げています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国も含めた国際社会全体が取り組む普遍的なものであり、我が国においても積極的に取り組まれています。

○SDGs と基本施策のつながり

1. 家庭における望ましい食習慣の定着



2. 食に関する体験活動の推進



3. 学校・幼稚園・保育所等における食育の推進



4. 地域における食生活改善や企業・大学等と連携した食育の推進



5. 地産地消による交流の促進



6. 食の安全・安心への理解



7. 食を育む環境への理解や災害時を意識した食育の推進



8. 郷土料理による食文化の伝承



9. 食育に関する情報の提供



第4章 具体的な取り組み

1 家庭における望ましい食習慣の定着

食育は家庭で行うことが基本であり、子どもが健やかに成長するための基本的な食習慣を身につけ、食を大切にする心を育てる場でもあります。しかし、ライフスタイルや食を取り巻く環境の変化の中で、食生活や食習慣の乱れが生じています。

食習慣は、小さい頃から日々の体験を積み重ねることにより身につくことから、学校や地域等と連携しながら家庭における望ましい食習慣の定着を図ります。

<SDGs との関連性>



3…家庭における望ましい食習慣を定着させることで、健康を推進する。

4…関係機関による教室等で、質の高い教育を提供する。

17…学校や地域等と連携し、家庭における望ましい食習慣の定着を図る。

①生活リズムと食習慣の習得

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
母親学級	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠中・産後の食事や、離乳食についての講話と調理実習を行います。 妊娠中の健康についての講義や歯科健診を実施します。 	健康増進課
赤ちゃん相談 4 か月児 10 か月児 離乳食相談会	<ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃん相談時に、離乳食の進め方について伝えます。また、個別相談において子どもの食欲や成長・発達段階に合わせた離乳食の進め方を伝えます。 個別ブラッシング実習などを行います。 	健康増進課
幼児健診等 1 歳 6 か月児 むしば予防はみがき 相談 2 歳児歯科 3 歳児	<ul style="list-style-type: none"> 幼児健診などで、幼児食の進め方、おやつを紹介を行います。また、個別相談において、子どもの発達段階に合わせた食事の進め方を伝えます。 個別ブラッシング実習やフッ化物歯面塗布などを行います。 	健康増進課

②望ましい食習慣の形成

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
朝食摂取の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の児童等を対象に、視覚教材（大型絵本・エプロンシアター等）を活用した「早寝・早起き・朝ごはん」の推進を行います。 	保育課
	<ul style="list-style-type: none"> ・母親学級、赤ちゃん相談、幼児健診、健康教室、健康教育等で、生活リズムを整え、朝食摂取を含めた望ましい食習慣を伝えます。 ・地区保健推進員の地区活動で、生活リズムを整え、朝食摂取を含めた望ましい食習慣を伝えます。 	健康増進課
	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の小・義務教育学校5年生を対象に、学級担任と連携して、朝食についての食に関する指導を行います。 <p>朝食の必要性や望ましい組み合わせを理解することにより、朝食の欠食をなくす意欲が持てることを目指します。</p> <p>また、授業で使用したワークシートに保護者からコメントをもらうことにより、学校と家庭が連携できるよう働きかけます。</p>	教育指導課 学校給食センター

目標（指標名）	参考値 (R元)	参考値 (R2)	現状値 (R3)	目標値 (R9)
食育に係る健康教育（地区保健推進員の地区活動含む）等の実施回数	324回	175回	199回	213回

③食育にかかる情報提供の推進

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
食育情報	インターネット等を活用した情報発信を家庭に向けて行います。	保育課 健康増進課

④実践力の向上支援

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
市場の食材等を説明する情報教室	消費者を対象に、市場の食材等に関する教室を開催します。	卸売市場

目標（指標名）	参考値（R元）	参考値（R2）	現状値（R3）	目標値（R9）
参加者数	—	—	—	20名
実施回数	—	—	—	年1回

※新規実施のため、R3 以前の実績なし。

コラム ～朝食を食べるメリット～

朝食を食べることで、体温の上昇や心身の活動力が上がり、集中力を高めることが出来ます。朝食は一日の始まりの大切なエネルギー源です。脳のエネルギー源のブドウ糖を朝食でしっかり補給し、脳と体を目覚めさせましょう。

朝食は主食・主菜・副菜をそろえて、栄養バランスを整えることが大切です。しかし、すべて揃えることが難しい場合は、まずはコンビニやスーパーで揃えられるパンやバナナなど、手軽に食べられるものから始めてみてはいかがでしょうか。

<手軽に摂れる朝食の例>

○主食・主菜・副菜をとる



○すべて揃えることが難しい場合は一品から



2 食に関する体験活動の推進

食に関する感謝の気持ちを醸成するためには、消費者の農業体験や生産者に対する理解が大切であり、実際に農作物を栽培、収穫し、調理して食べるという体験活動は重要となります。

農業に関する様々な体験の機会を提供し、学校をはじめ幼稚園、保育所、各種団体などの児童や園児、市民等に、食や農業に対する関心と理解を深める体験活動を推進します。

<SDGs との関連性>



- 4…体験活動を行い、食や農業に対する関心と理解を深め、質の高い教育を提供する。
- 12…体験活動を行うことで、栽培～消費までの流れを理解し、食の大切さを理解する。
- 17…行政・各種団体等が協力し、食に関する体験活動を推進する。

①農業体験の機会を提供

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
市民農園貸付事業	市民の農作業を通じ自然にふれあいたいという要望に応えるために、引き続き市民農園貸付事業を推進します。また、個人の市民農園運営に対する支援を行うとともに、開設に向けた取り組みへの相談等を行っています。	農政課
親子農業体験教室	“自然とのふれあい” や “収穫の喜び” などを通じて農業への理解を深めてもらうとともに、親子での共同作業を通じて家族間のコミュニケーションを図ることを目的に親子体験農業教室を実施します。	農政課

目標（指標名）	参考値（R元）	参考値（R2）	現状値（R3）	目標値（R9）
親子農業体験教室（総参加家族数）	14組	—	12組	20組

②農家との交流支援

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
グリーンツーリズムの推進	グリーンツーリズムとは「都市と農村の交流」のことをいい、都市住民が農場で余暇を過ごし、農業体験を通じて農家との交流を図れるよう支援を行います。	農政課 (農商工連携)

3 学校・幼稚園・保育所等における食育の推進

学校・幼稚園・保育所等は、栄養教諭や栄養士及び保育士等専門職から食の基本を学び、食生活の改善を図ることのできる重要な場となっています。また、学校給食等を通して食の大切さ、楽しみ、マナーを学ぶ場でもあります。

学校で身につけた食に関する知識や理解は、子どもを通じて家庭の食生活に良い影響を与えることも期待できます。幼稚園・保育所等においては、感受性を育むのに大切な時期であり、楽しく食事できることを大切にしていける必要があります。

家庭や地域、関係団体等と連携しながら学校や幼稚園、保育所等成長段階に応じた食育を推進します。

<SDGs との関連性>



- 2…食の基本を学ぶことで、食生活を改善し、低栄養者を減らす。
- 3…食や口腔衛生に関する知識や理解を図ることで、健康を推進する。
- 4…栄養教諭や栄養士及び保育士等から食の基本を学び、質の高い教育を提供する。
- 12…地産地消を推進し、持続可能な消費と生産を実現する。
- 17…家庭や地域、関係団体等が連携し、食育を推進する。

①学校における食育の推進

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
学校における食の指導	成田市「学校の食に関する指導計画」に基づき、栄養教諭等が市内の小中、義務教育学校に出向き、学級担任と連携して食に関する指導を行います。 小学校では1年生と3年生と5年生を、中学校では1年生を、義務教育学校では1年生と3年生と5年生、7年生を対象に実施します。 児童生徒が食に関する正しい知識や能力を身につけられるよう特別活動を中心に、栄養教諭等が専門性を活かして系統的に食に関する指導の支援を行います。	教育指導課 学校給食センター
給食の活用	地元でとれた野菜を活用したり、献立に行事食や郷土食を取り入れたり、調理現場を体験したりと、給食を活用した食育を工夫します。また、毎年11月には、地場産物を多く取り入れた「成田給食の日」を実施することにより、児童生徒の地場産物の認知度をあげることを目指します。	教育指導課 学校給食センター

口腔衛生の取り組み	小中、義務教育学校の児童生徒を対象に、歯科健診・健康教育を実施し、口腔衛生に努めるとともに、よく噛んで、味わう食べ方が身につくよう指導に努めます。	健康増進課 教育指導課
-----------	---	----------------

②家庭との連携

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
家庭教育学級開催事業	保育所・幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校の保護者を対象に、給食や食に対する講話や試食会を給食センターや学校、保育所といった場所で実施し、家庭教育のあり方を学ぶ機会とし、家庭における教育力の向上を図ります。 また、重点課題である「食育の推進」を取り上げ、給食センターの視察研修や給食の試食、おやつ作り等の調理実習を行います。	保育課 健康増進課 生涯学習課
給食だより、たべものだより、食育だよりの配付	学校及び保育所の給食の内容を具体的に説明し、理解を深めてもらいます。	保育課 学校給食センター

目標（指標名）	参考値（R元）	参考値（R2）	現状値（R3）	目標値（R9）
家庭教育学級参加者数	1,704名	—	77名	1,700名
家庭教育学級実施回数	年60回	—	年6回	年60回

※食育に関する内容を実施した場合に限定して抽出。

③保育所等での食育の推進

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
幼稚園、保育所における食育の啓発	保育士、栄養士、看護師、調理員など多くの職種との連携のもと、食育に関わる体験、匂を感じる献立の提供、児童や家庭に向けて食を営む力の基礎を培えるよう食育の啓発に努めます。	保育課
「保育所の食育に関する指針」の取り組み	野菜の栽培・収穫等の体験を通じて感謝の心を育てるとともに多くの種類の食べ物や料理を味わえる献立を給食に取り入れるなど、クッキング体験や食材の紹介、食事のマナー（挨拶・姿勢等）、食具の使い方、お手伝いを身に付けられるよう取り組みます。 また、給食サンプルの展示や保護者向けの給食試食会の実施等、給食を活用することにより家庭と連携した食育を推進していきます。	保育課

<p>パクパク教室 ピカピカ教室</p>	<p>こども発達支援センターに通所している親子に対して栄養に関する講話及び調理実習、栄養相談、また歯科健診及びブラッシング指導・フッ化物歯面塗布・摂食嚥下指導を行います。</p>	<p>障がい者福祉課 健康増進課</p>
<p>口腔衛生の取り組み</p>	<p>保育所の児童を対象に、歯科健診・健康教育を実施し口腔衛生に努めるとともに、よく噛んで、味わう食べ方が身につくよう指導に努めます。</p>	<p>保育課 健康増進課</p>



4 地域における食生活改善や企業・大学等と連携した食育の推進

生涯を通じて健康な生活をおくるためには、地域において栄養や食生活に関する情報を得る機会を設ける必要があります。地域活動を推進する一方、食文化や郷土料理など、地域で育まれた食育活動を家庭に浸透させていきます。

生活習慣病の発症・重症化予防のため、食生活改善に取り組み、生活習慣病の予防対策を図ります。

また、企業や大学等と連携し、食育に関する取り組みを行い、各世代に対して効果的な食育を推進します。

<SDGs との関連性>



- 2…地域において栄養や食生活に関する情報を得る機会を設け、低栄養者を減らす。
- 3…食生活改善に向けた啓発により、生活習慣病の予防対策を行い、健康を推進する。
- 4…ライフステージに応じた食育等の啓発を行い、質の高い教育を提供する。
- 17…企業・大学等と連携し、地域等における食育を推進する。

①食に関する普及啓発

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
健康教育（地区保健推進員の地区活動含む）	・乳幼児から高齢者までを対象とした健康教育に関する講座等を実施します。 ・地域住民を対象としたライフステージに応じた食生活に関する知識の普及啓発を行います。	健康増進課
成人向け健康教室	健康や食生活について、正しい知識が習得できるよう、講話・調理実習を実施します。	健康増進課
給食レストラン	地域住民を対象として「なりたの五つ星給食レストラン」を開催し、給食の良さを広く市民に伝えます。	学校給食センター
栄養バランスの良い食生活の普及	各種イベント等で、行動を促すような資料を作成し、栄養基準を普及啓発します。	健康増進課 農政課
関係機関との連携	企業・大学等と連携し、食育への意識を高め、各世代に対し効果的な食育を推進します。	健康増進課 農政課

目標（指標名）	参考値（R元）	参考値（R2）	現状値（R3）	目標値（R9）
食育に係る健康教育（地区保健推進員の地区活動含む）等の実施回数（再掲）	324回	175回	199回	213回

②生活習慣病等の予防

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
食生活の改善	生活習慣病を予防するため、食生活改善に向けた啓発とともに、医師や保健師・栄養士が健康相談に応じます。また、歯・口腔の健康に関して、歯科医師・歯科衛生士が相談に応じます。	健康増進課

③高齢・障がい者の食事改善

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
配食サービス	在宅高齢者及び心身障がい者に対し、配食サービスを行う事で偏りがちな食事の改善や健康増進を図るとともに、安否確認に努めます。	高齢者福祉課 障がい者福祉課
介護予防の推進	高齢期の食事の栄養改善、口腔機能の維持・向上など教室を実施します。	介護保険課

コラム ～フレイル予防～

・フレイルとは？

健康な状態と日常生活でサポートが必要な要介護状態の中間を示します。

多くの方はフレイルを経て要介護状態に進むと考えられていますが、高齢者においては特にフレイルが発症しやすいことが分かっています。

高齢者が多い現代の日本においては、フレイルに早く気が付き、予防・治療することが大切です。

・健康寿命とフレイル

皆さんは、健康寿命を知っていますか？

健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」を指します。人生を豊かに過ごすためにも、フレイルの予防により健康寿命を延伸することは重要となります。

・フレイル予防の方法

フレイル予防には3つのポイントがあります。

1つ目は栄養です。バランスの良い食事を3食しっかりとることで、フレイルの原因となる低栄養のリスクを予防しましょう。また、食事が快適にできるように口腔ケアも重要です。2つ目は身体活動です。高齢期となり筋力が低下すると、歩行困難のリスクが高まります。筋力維持のため、運動を心掛けましょう。3つ目は社会活動です。趣味やボランティアで活動し、社会とのつながりを持つことは、フレイル予防に有効です。自分に合った活動を見つけましょう。

5 地産地消による交流の促進

地産地消とは、地域で生産された農産物を、その地域で消費することを意味し、アンケートの結果から、多くの市民が地場産物を意識的に選んでいる状況がうかがえます。地産地消の活動は、市民と生産者を結びつける取り組みであるとともに、農業生産者とそれに関連する産業の活性化が期待されます。

農業者と市民が、直接、顔をあわせ話ができる関係が実現することから、交流の促進にもつながります。

農産物直売所での販売活動を促進し、新鮮で安全・安心な農産物を提供する地産地消の取り組みを推進するとともに、市民と生産者との交流を促進し、農業への理解と地元農業の振興を図ります。



<SDGs との関連性>



- 4…学校給食に地場産物を活用し、地産地消の理解を深め、質の高い教育を提供する。
- 12…地産地消を推進し、持続可能な消費と生産を実現する。

①地場産物の流通

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
地産地消ガイドマップ	直売農家、直売所等の情報を掲載したマップを作成・配布します。	農政課
販売促進	直売農家、直売所等販売の拠点づくりを進めるとともに、学校給食や飲食店における地場産物の利用を促進します。	農政課

目標（指標名）	参考値 (R元)	参考値 (R2)	現状値 (R3)	目標値 (R9)
地産地消ガイドマップ 配布部数 (年間)	3,500 部	3,500 部	5,200 部	6,400 部
農産物直売所の利用率 (よく利用する人の割合)	—	—	31%	50%

地産地消ガイドマップ

成田市の主な直売所や体験施設、特産物の情報を掲載したガイドマップです。

ガイドマップを片手に、ぜひ市内各地を周遊してみてください。

※掲載されている情報は発行時点の情報のため、詳細については各店舗等にお問い合わせください。

地産地消ガイドマップはこちら⇒



②学校給食への地場産物の利用

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
学校給食への地場産物の活用	地産地消の推進のため、施設ごとに地元生産者や直売所等と契約・購入により、学校給食への地場産物の活用に取り組みます。	学校給食センター

目標（指標名）	参考値（R元）	参考値（R2）	現状値（R3）	目標値（R9）
地場産物 [*] の活用率（野菜）	38%	39%	41%	50%

※目標での地場産物は、千葉県産と成田市産をあわせたものを指しています。

6 食の安全・安心への理解

食の安全が損なわれることは、健康に重大な影響や被害を及ぼすことにつながります。食の安全性をはじめとする食に関する知識と理解を深めるため、食品の生産・加工・流通に携わる事業者と連携を図るとともに、市民に対しても、食の安全に対する普及・啓発に努めます。

また、食の安全性や表示について理解を深め、適切な判断による食品選択ができるよう、市民の意識を高めます。

<SDGs との関連性>



- 3…食品表示などの健康教育により、生活習慣病等を予防し、健康を推進する。
- 4…食を含む消費生活に関する講座を行い、質の高い教育を提供する。
- 12…地産地消を推進し、持続可能な消費と生産を実現する。
- 17…事業者等と協力し、食の安全・安心への理解を実現する。

①消費者との交流促進

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
市場見学	市民・小学生等を対象に、市場内施設の見学を実施します。	卸売市場
市場一般開放	市民に市場の魅力や役割とともに、市民も気軽に買い物ができる市場であることをPRするため、定期的に市民向けのイベント「成田楽市」を実施します。 また、「成田楽市」の実施にあたっては、地元企業などの関係者とも連携し、多種多様な交流促進に取り組めます。	卸売市場

目標（指標名）	参考値 (R元)	参考値 (R2)	現状値 (R3)	目標値 (R9)
市場見学参加者数	272名	—	60名	1,200名
成田楽市参加者数*	—	—	3,600名	30,000名

※新規実施のため、R2 以前の実績なし。

②情報提供

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
健康教育	食品表示（栄養成分表示等）を見ることにより、アレルギーの誤食防止や食中毒・生活習慣病予防などにつながることを伝えます。	健康増進課



成田市公設地方卸売市場

7 食を育む環境への理解や災害時を意識した食育の推進

学校や地域、関係団体等と連携し、農業体験や市民農園等による農産物を育て、収穫する楽しさ、生産に係る環境学習機会の提供などを通して、環境に配慮した農業への理解を促進します。

また、食べられるにもかかわらず廃棄されている食品ロスの削減に向け、家で「もったいない」の心を持って、食べ残しを減らすといった環境に配慮した取り組みを推進するとともに、災害発生時も健全な食生活の実践ができるよう、家庭における食料品の備蓄について普及啓発を行います。

<SDGs との関連性>



- 2…環境にやさしい農業を推進し、持続可能な農業を推進する。
- 3…栄養バランスを意識した備蓄を推進し、災害時でも健康的な生活を確保する。
- 4…各種教室で農業の理解促進を行い、質の高い教育を提供する。
- 12…食品ロスを削減し、持続可能な消費と生産を実現する。
- 17…各種団体と協力し、食を育む環境への理解や、災害時を意識した食育を推進する。

①安全安心な農産物の供給

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
有機農業の推進	環境負荷の低減や安全安心な農産物の供給のため、有機農業の推進に取り組みます。	農政課
ちばエコ農産物の普及	化学合成農薬と化学肥料を通常の半分以下に減らして栽培し、認証を受けたちばエコ農産物の普及に取り組みます。	農政課

目標（指標名）	参考値（R元）	参考値（R2）	現状値（R3）	目標値（R9）
有機農産物生産者数	4 経営体	4 経営体	4 経営体	6 経営体
「ちばエコ農産物」認証戸数（延べ）	53 戸	41 戸	80 戸	112 戸

②農業の理解促進

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
各種教室の実施	みんなの農村ネットワーク等により、田んぼと畑の耕育教室や、食と命の教室などを実施します。	農政課

目標（指標名）	参考値（R元）	参考値（R2）	現状値（R3）	目標値（R9）
各種教室への協力団体数	2団体	2団体	2団体	3団体

③地域との連携

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
食品ロス削減の普及	消費生活展にて、ポスターの掲示やチラシの配架等をする。	商工課
食品ロス削減の推進	食品ロスをテーマにした講座や会議を行う。	商工課

④災害時を意識した食育の推進

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
災害時に対応した食育の啓発	災害時に必要とされる家庭での備蓄等について、食育の側面から啓発をします。	農政課

コラム ～ローリングストック～

・ローリングストックって何？

普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法です。



・みんな同じものをストックすればよいの？

乳幼児・高齢者・慢性疾患や食物アレルギーのある方などは、普段の状態に近い食事をとることができる準備をしておきましょう。

8 郷土料理による食文化の伝承

郷土料理とは、地域の自然風土、食材、食習慣、歴史文化等を背景として、地域の人々の暮らしの中での創意工夫により生まれたものです。

郷土食には、食べ物を保存する知恵や工夫など、食べ物の大切さを実感することができ、子どもたちが郷土食に触れることは、地域の文化や食べ物の大切さの理解につながります。

郷土料理の継承を図ることは、食文化の伝承につながるだけでなく、新たな食文化の創造も期待されます。和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたことをきっかけに、地域の食材や食を見直し、次世代に継承するとともに、郷土料理を掘り起こし、食文化を通じ、地域の振興を図ります。

<SDGs との関連性>



3…バランスの優れた和食文化を伝承することで、健康を推進する。

4…社会教育及び保育所や学校において、食文化を伝承し、質の高い教育を提供する。

17…団体と連携し、郷土料理による食文化の伝承を推進する。

①食文化の伝承

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
太巻き寿司講習会	米飯食文化の良さを広め、食文化の伝承と消費拡大を図ります。	農政課
行事食の普及	保育所や学校において、伝統ある行事食の普及に努めます。	保育課 学校給食センター

目標（指標名）	参考値 (R元)	参考値 (R2)	現状値 (R3)	目標値 (R9)
太巻き寿司講習会 参加者数	13名	—	—	48名



9 食育に関する情報の提供

食育の推進にあたっては、市民一人一人が自ら食育に関する取り組みを実践できるよう、情報を正確にわかりやすく発信することが必要となっています。

そのため、啓発対象に応じた広報媒体の選択、具体的な実践や活動を提示した啓発など、必要な情報を届けられるよう配慮し、情報提供の充実に努めます。

また、新型コロナウイルス感染症の影響は長期間にわたることが予想され、収束後も以前の生活に完全に帰ることは困難と考えるため、「新たな日常」においても食育を着実に実施できるよう、デジタル化に対応したオンラインでの非接触型の食育の展開を推進します。

<SDGs との関連性>



- 3…健康に関する情報提供を行い、健康を推進する。
- 4…各世代に対し食育に関する情報提供を行い、質の高い教育を提供する。
- 12…地産地消を推進し、持続可能な消費と生産を実現する。
- 17…事業者等の開発したツールを使用し、より体験的な情報の提供を推進する。

①食生活等に関する情報提供

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
健康教育（再掲）	食品表示（栄養成分表示等）を見ることにより、アレルギーの誤食防止や食中毒・生活習慣病予防などにつながることを伝えます。	健康増進課
栄養バランスの良い食生活の普及（再掲）	各種イベント等で、行動を促すような資料を作成し、栄養基準を普及啓発します。	健康増進課 農政課

②デジタルツールを活用した食育情報の発信

主な事業・取り組み	活動内容	担当課
地産地消のPR	市の特産品等について、デジタルツールを活用したPRを行い、広く周知する。	農政課
栄養バランスのとれたレシピの普及	ホームページ等に栄養バランスを考えたレシピを掲載する。	健康増進課 農政課
タブレット端末を使用した食育の展開	食育に関する指導を、タブレット端末を用いて行えるよう検討する。	教育指導課
食育情報（再掲）	インターネット等を活用した情報発信を家庭に向けて行います。	保育課 健康増進課

■ ライフステージでみる食育

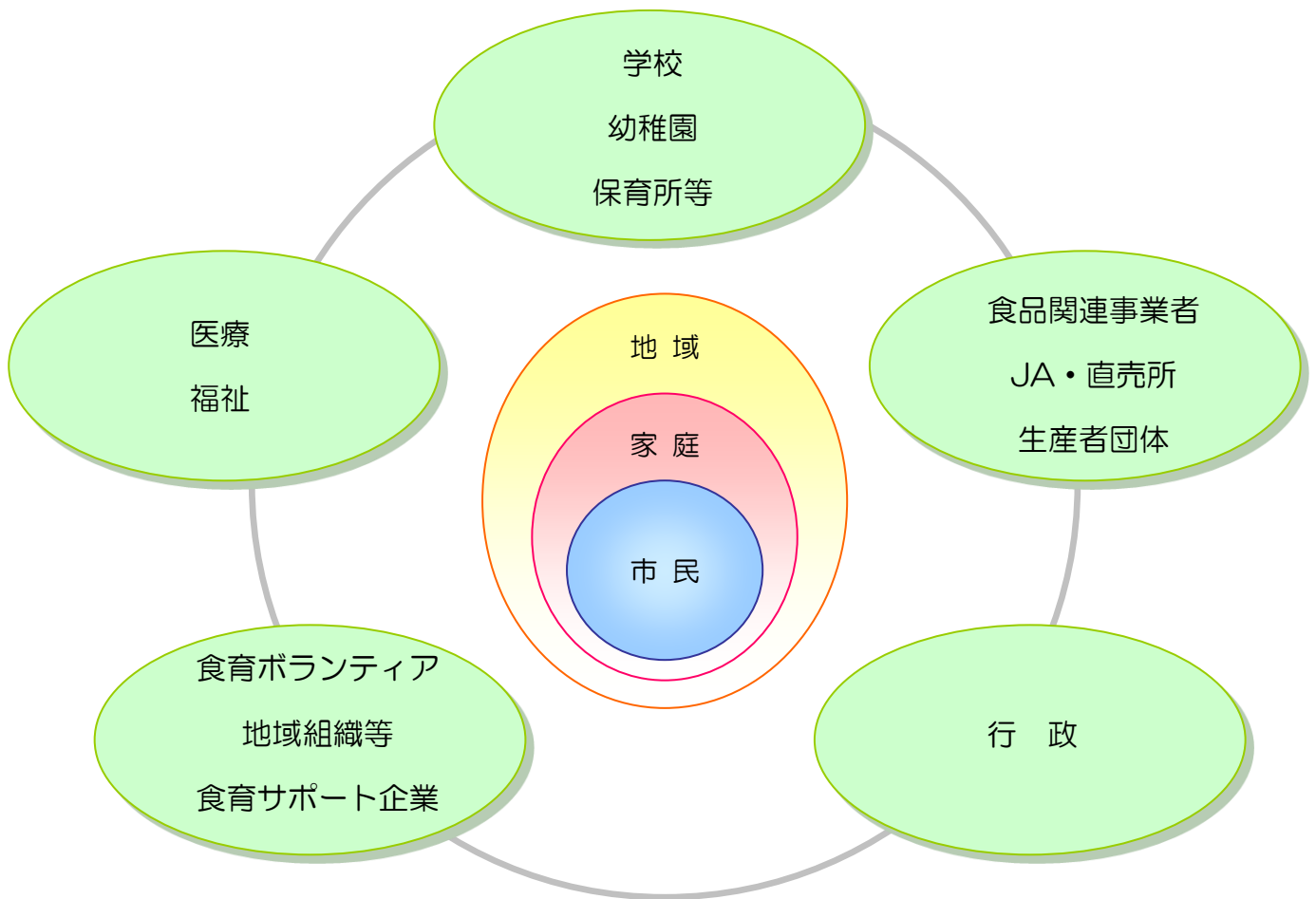
ステージ	テーマと取り組みのポイント
<p>妊娠期</p>	<p>《テーマ》 必要な栄養について理解し、バランスのよい食事をしよう 〈ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠前から健康なからだをつくろう ・適正な体重増加を知り、健康的な食習慣を
<p>乳児期・幼児期 (0～5 歳)</p>	<p>《テーマ》 生活リズムをつくり、食べる意欲を育てよう 〈ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な食べ物に触れ、関心をもつ ・本来の味を経験し、味覚を育てる ・規則正しい生活リズムを身につける ・家族が手本となり、食事のあいさつや箸の持ち方などマナーの基礎をつくる
<p>学齢期・思春期 (6～18 歳)</p>	<p>《テーマ》 健全な食生活を身につけ、自らの健康を考えよう 〈ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活リズムを定着させる ・農業体験学習や調理をすること等により、食べ物を「いただく」意味を考える ・家族や友だち等と会話を楽しみながら食事し、マナーを定着させる ・栄養バランスのとれた食事の大切さを知る ・食文化にふれる
<p>青年期・壮年期 (19～64 歳)</p>	<p>《テーマ》 食生活の自己管理による、生活習慣病の予防に努めよう 〈ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病予防のために、栄養バランスを考えた食事をする ・正しい知識に基づいて、食に関する情報を選択する ・自らが家庭における食育に取り組む ・次世代に食文化を伝える
<p>高齢期 (65 歳～)</p>	<p>《テーマ》 健康長寿を目指し、次世代に食文化を伝えよう 〈ポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人との交流を保ち、心豊かな暮らしを目指す ・家族や友人と楽しく食事をする ・食文化を地域に伝える ・定期的に健康診断を受け、健康状態に応じた食生活を実践する

第5章 計画の推進

1 ネットワーク体制

(1) 推進体制

本計画は、すべての市民を対象とするものであり、家庭はもちろん、地域、学校や幼稚園、保育所等、行政、関係団体等が、それぞれの連携の強化を図りながら、一体となって食育を推進してまいります。



(2) それぞれの役割

食育を推進するため、それぞれの主体ごとの主な取り組み内容を示します。

取り組み主体	取り組み内容
市民 家庭 地域	<ul style="list-style-type: none"> • 健康なからだをつくります。 • 規則正しい生活リズムで、3食バランスよく食べます。 • 朝ごはんの大切さを伝えます。 • 望ましい、おやつ摂り方を考えます。 • 家族や友人等と、楽しく食事をします。 • 地場産物を取り入れた食事をします。 • 料理教室やイベント、研修会など、食を楽しむ場所、学べる場所に積極的に参加します。 • 食品の安全（産地、成分表示、消費期限など）について関心を持ち、学びます。
学校 幼稚園 保育所等	<ul style="list-style-type: none"> • 食に関する指導計画等に基づき、食育に取り組みます。 • 様々な教育活動を通して、食べ物の大切さや人に感謝する心を育てます。 • 朝ごはんの大切さを伝えます。 • 家族や友人等と一緒に食べることの喜びや楽しさを伝えます。 • 食事のマナーが身につくよう指導します。 • 体験学習を通じて、児童生徒と生産者との交流を図ります。 • 郷土料理や行事食について学ぶ機会を設けます。 • 地場産物を、給食献立に積極的に取り入れます。 • 歯と口腔の健康づくりを支援します。
医療 福祉	<ul style="list-style-type: none"> • 市民への健康相談・指導（栄養・口腔など）を充実します。 • 高齢者などの食に関する指導や支援に取り組みます。
食品関連事業者 JA・直売所 生産者団体	<ul style="list-style-type: none"> • 地場産物を使用した、栄養バランスのよいレシピの提案、提供をします。 • 安心して安全な農作物を生産・提供します。 • 地場産物の安全供給に取り組みます。 • 農業体験などによる消費者との交流を通じて、食の大切さ、食への理解が深まるよう取り組みます。
食育ボランティア 地域組織等 食育サポート企業	<ul style="list-style-type: none"> • 朝ごはんの大切さを伝えます。 • ライフステージに合った、望ましい食生活の指導や支援に取り組みます。 • 地場産物の良さを伝えるため、体験の場の提供や指導に取り組みます。 • 地場産物の良さを広め、消費拡大を図ります。 • 郷土料理、行事食の普及に努めます。 • 食の安心・安全に関する情報を提供します。

取り組み主体	取り組み内容
行政	<ul style="list-style-type: none"> 食育に関する積極的な情報提供を行うとともに、普及啓発活動に取り組みます。
	<ul style="list-style-type: none"> ライフステージにあわせた各種健診をとおり、健康的な食生活が送れるよう支援します。
	<ul style="list-style-type: none"> 市民への健康相談・指導（栄養・口腔など）を充実します。
	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防や歯周病予防など、健康づくり事業を推進します。
	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者などの食に関する指導や支援に取り組みます。
	<ul style="list-style-type: none"> 食の安心・安全に関する情報を提供します。
	<ul style="list-style-type: none"> 地場産物の良さを広め、消費拡大を図ります。
	<ul style="list-style-type: none"> 郷土料理、行事食の普及に努めます。 農産物直売所などの情報を発信します。

2 計画の進行管理

本計画に基づく、食育の取り組み状況や目標値については、成田市食育推進計画に係るワーキングチーム等において、評価や検証を行いながら、計画を推進していきます。

そのため、計画の進捗状況や社会情勢の変化、国や県の動向によっては、計画期間中においても必要に応じて見直しを行うこととします。

資料編

1. 成田市食育推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 食育基本法（平成17年法律第63号）第18条第1項の規定により、市民が健全な心身を培い、豊かな人間性を育めるよう、食育を総合的かつ計画的に推進するため、成田市食育推進計画（以下「計画」という。）を策定するに当たり、成田市食育推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、計画の策定に関する事項について、調査及び研究を行い、計画の策定に係る方針について検討し、審議する。

(組織)

第3条 委員会は、別表に掲げる者をもって組織する。

2 委員会に会長及び副会長を置き、会長は経済部長の職にある者を、副会長は会長が指名する者をもって充てる。

3 会長は、委員会の事務を総理し、委員会を代表する。

4 会長に事故があるときは、副会長がその職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

2 委員会の会議には、会長が必要と認める関係者等を出席させ、参考意見又は説明を聴取することができる。

(ワーキングチーム)

第5条 計画の策定に関し技術的な検討を行うため、委員会にワーキングチームを置くことができる。

2 ワーキングチームは、会長が指名する者をもって組織する。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、経済部農政課において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この要綱は、令和3年8月6日から施行する。

(施行期日)

1 この要綱は、平成28年12月21日から施行する。

(成田市食育推進計画策定委員会設置要綱の廃止)

2 成田市食育推進計画策定委員会設置要綱（平成22年3月11日施行）は廃止する。

別 表

委員名	備考
企画政策部長	
福祉部長	
健康こども部長	副会長
経済部長	会長
教育部長	
企画政策部企画政策課長	
福祉部高齢者福祉課長	
福祉部障がい者福祉課長	
福祉部介護保険課長	
健康こども部保育課長	
健康こども部健康増進課長	
経済部商工課長	
経済部農政課長	
経済部卸売市場長	
教育部教育指導課長	
教育部学校給食センター所長	
教育部生涯学習課長	

2. 策定経過

年月日	内容ほか
令和3年10月5日	令和3年度第1回ワーキングチーム打合せ会議開催 ・次期食育推進計画のスケジュール（案）について ・次期食育推進計画策定に向けたアンケート（案）について
令和3年10月27日	令和3年度第2回ワーキングチーム打合せ会議開催 ・第1回協議内容の確認について ・次期食育推進計画策定に向けたアンケート（案）について
令和3年12月1日	令和3年度第3回ワーキングチーム打合せ会議開催 ・次期食育推進計画策定に向けたアンケート（案）について
令和3年12月23日	令和3年度第1回成田市食育推進計画策定委員会開催 ・次期食育推進計画のスケジュール（案）について ・次期食育推進計画策定に向けたアンケート（案）について
令和4年2月14日～ 令和4年3月31日	計画策定に係る食育アンケートの実施 ・一般市民 2,000人 ・対象小中学生 2,399人
令和4年6月13日～ 令和4年7月29日	計画策定に係る食育アンケートの実施 ・対象高校生 821人
令和4年7月2日	国際医療福祉大学とのワークショップ開催
令和4年7月7日	令和4年度第1回ワーキングチーム打合せ会議開催 ・次期食育推進計画のスケジュール（案）について ・次期食育推進計画策定に向けたアンケート調査の集計報告 ・次期食育推進計画骨子（案）について ・追加アンケート及びワークショップの実施について
令和4年7月19日	ANAグループとのワークショップ開催
令和4年7月26日	計画策定に係る食育アンケートの実施 ・外国人 47人
令和4年8月18日	令和4年度第1回成田市食育推進計画策定委員会開催 ・次期食育推進計画のスケジュール（案）について ・次期食育推進計画策定に向けたアンケート調査の集計報告 ・次期食育推進計画骨子（案）について
令和4年10月21日	令和4年度第2回ワーキングチーム打合せ会議開催（書面） ・次期成田市食育推進計画（素案）及び各課実施事業の確認について

令和4年11月7日	令和4年度第3回ワーキングチーム打合せ会議開催（書面） ・次期成田市食育推進計画（素案）について ・パブリックコメントの実施について
令和4年11月15日	令和4年度第2回成田市食育推進計画策定委員会開催 ・アンケート結果を踏まえた分析について ・第3次成田市食育推進計画の素案について ・パブリックコメントの実施について
令和4年12月7日	成田市議会 経済環境常任委員会報告 ・第3次成田市食育推進計画（素案）について
令和4年12月15日 ～令和5年1月16日	パブリックコメントの実施 ・第3次成田市食育推進計画（素案）についての意見募集
令和5年1月25日	成田市農政推進協議会開催 ・第3次成田市食育推進計画に関する報告について
令和5年2月2日	令和4年度第4回ワーキングチーム打合せ会議開催（書面） ・第3次成田市食育推進計画（素案）に関するパブリックコメントについて
令和5年2月16日	令和4年度第3回成田市食育推進計画策定委員会開催（書面） ・第3次成田市食育推進計画（素案）に関するパブリックコメントについて
令和5年3月15日	令和4年度第5回ワーキングチーム打合せ会議開催（書面） ・第3次成田市食育推進計画の策定について
令和5年3月23日	令和4年度第4回成田市食育推進計画策定委員会開催（書面） ・第3次成田市食育推進計画の策定について

3. アンケート調査票

(1) 一般市民調査票

I. あなたご自身のことについて、お答えください。(あてはまるもの□に○)

●年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
●性別	男性			女性		
●職業	1. 会社員	2. 公務員、団体職員	3. 自営業	4. 農業	5. パート、アルバイト	6. 専業主婦(主夫)
	7. 学生	8. 無職	9. その他()			
●家族	1. 単身(ひとり暮らし) 2. 夫婦のみ(1世代世帯)					
	3. 親と子(2世代世帯) 4. 親、子、子の子(3世代世帯)					
	5. その他()					
※同居しているご家族に、18歳以下のお子様がいいらっしゃる場合、あてはまるもの、すべてに○をつけてください。						
	1. 就学前	2. 小学生	3. 中学生	4. 15歳(中学生を除く)から18歳以下		
●地区	1. 成田	2. 公津	3. 八生	4. 中郷	5. 久住	6. 豊住
	7. 連山	8. ニュータウン	9. 下総	10. 大塚	11. わからない	
※お住まいの地区がわからない方は住所をお書きください。記入例・・・(成田市花崎町)						

II. 食育についておたずねします。

問1 「食育」という言葉や、その意味を知っていますか。(あてはまるもの□に○)

1. 言葉も意味も知っている	
2. 言葉は知っているが意味は知らない	
3. 言葉も意味も知らない	

問2 「食育」に関心がありますか。(あてはまるもの□に○)

1. ある	
2. どちらかといえばある	
3. どちらかといえばない	
4. ない	
5. わからない	

問3 問2で「1. ある」「2. どちらかといえばある」と答えた方におたずねします。

関心がある項目に○をつけてください。(あてはまるもの□まで○)

1. 心身の健康(歯、口を含む)の向上	
2. 食生活、食習慣の改善	
3. 食品の安全性に関する理解	
4. 食を通じたコミュニケーション	
5. 食事に関する、あいさつの励行や作法の習得	
6. 自然の恩恵や、生産者等への感謝や理解、農林漁業等に関する体験活動	
7. 環境との調和、食品廃棄の削減や食品リサイクルに関する活動	
8. 郷土料理、伝統料理等の優れた食文化の伝承	
9. その他()	

《「食育」に関するアンケート調査 ご協力のお願い》

日頃より、市政にご理解、ご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。本市では、平成17年7月に国で施行された「食育基本法」に基づき、食育を総合的かつ計画的に推進するため、平成30年3月に「第2次成田市食育推進計画」を策定し、健康、農林、教育等の様々な分野において推進活動を進めています。今回お送りしました調査票は、皆様の食育に関する意識や関心、日頃の食生活等についてお忙しいところ恐縮に存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年2月
成田市長 小 泉 一 成
(公印省略)

「食育」とは、様々な経験を通じて、「食」に関する知識とバランスを育むことです。食べることは生涯にわたって続く基本的な営みですから子どもももちろん、大人になっても「食育」は重要です。健康的な食のあり方を考えるとともに、誰かと一緒に食事や料理をしたり、食べ物の収穫をしたり、季節や地域の料理を味わったりするなど食育を通じて「実践の環(わ)」を広げましょう。

《ご記入にあたってのお願い》

この調査は、市内にお住まいの20歳以上の方の中から無作為抽出した2,000人を対象に実施するものです。

- ①あて名のご本人がご回答ください。ただし何らかの事情により、ご本人が回答できない場合はご家族又はご本人と日常よく関わっておられる方がお答えください。
- ②選択肢がある場合は、あてはまるものを○で囲んでください。
- ③「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み()内になるべく具体的に記入ください。
- ④質問によっては、回答していただく方が限定されていたり、○の数に制限のあるものがありますので、注意してご記入ください。

本調査は無記名で行い、お伺いした内容は、個人情報取扱いに十分配慮し、統計的に処理させていただきます。

※ご回答いただきましたアンケートは同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずにご返送ください。



返 送 期 限
令和4年3月10日(木)

お問い合わせ先…〒286-8585 成田市花崎町760番地
成田市経済部農政課 0476-20-1541

※ 令和3年12月31日現在の住民記録データに基づいてお送りしています。

問4 日頃から「食育」を実践していますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 積極的にしている
2. できるだけ、するようになっている
3. あまりしていない
4. していない
5. わからない

問6へ

問5 問4で「3. あまりしていない」「4. していない」「5. わからない」と答えた方におたずねします。

あなたが食育を実践していない理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

1. 関心がないから
2. 仕事や趣味などで忙しいから
3. 食費を安くすることの方が重要だから
4. 特に意識しなくても問題はなから
5. よく知らないから
6. 活動や行動をしたくても、情報が入手できないから
7. その他()
8. 特になし

問6 18歳以下のお子様がいいらっしゃる方におたずねします。

子どもに対する以下の食育について、どのくらい重要だと思いますか。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

①料理づくりへのかわり

1. 重要
2. やや重要
3. それほど重要ではない
4. 重要ではない

②食生活の改善

1. 重要
2. やや重要
3. それほど重要ではない
4. 重要ではない

③食卓のマナー

1. 重要
2. やや重要
3. それほど重要ではない
4. 重要ではない

④農業、漁業体験

1. 重要
2. やや重要
3. それほど重要ではない
4. 重要ではない

⑤食文化や伝統の継承

1. 重要
2. やや重要
3. それほど重要ではない
4. 重要ではない

⑥食を通じてコミュニケーション

1. 重要
2. やや重要
3. それほど重要ではない
4. 重要ではない

⑦食べ物の無駄を減らす

1. 重要
2. やや重要
3. それほど重要ではない
4. 重要ではない

⑧自然や生産者への感謝

1. 重要
2. やや重要
3. それほど重要ではない
4. 重要ではない

⑨安全な食を選ぶ力

1. 重要
2. やや重要
3. それほど重要ではない
4. 重要ではない

問7 毎年6月は、食育月間であることを知っていますか。(いずれか1つに○)

1. 知っている
2. 知らなかった

問8 毎月19日は、食育の日であることを知っていますか。(いずれか1つに○)

1. 知っている
2. 知らなかった

問9 食育の推進に関わるボランティア活動に、機会があれば参加してみたいと思いませんか。(いずれか1つに○)

1. 参加したい ー問10へ
2. 参加したいとは思わない ー問11へ

問10 問9で「1. 参加したい」と答えた方におたずねします。
どのようなボランティア活動に参加してみたいと思いませんか。

(あてはまるもの3つまでに○)

1. 郷土料理、伝統料理等の食文化継承活動
2. 農業、漁業などに関する体験活動
3. 心身の健康(歯、口を含む)の向上に関する活動
4. 食生活の改善に関する活動
5. 生活習慣病予防などのための料理教室
6. 食品廃棄や食品リサイクルに関する活動
7. 食品の安全や表示に関する活動
8. 食育に関する国際交流活動
9. その他()
10. わからない

Ⅷ. あなたの食生活や健康について、おたずねします。

問11 朝食を食べていますか。(あてはまるもの1つに○)

※栄養ドリンク剤、野菜ジュース等の場合は含みません。

1. ほぼ毎日食べている ー問13へ
2. 週に4～5日食べる
3. 週に2～3日食べる
4. ほとんど食べない

問12 問11で「2. 週に4～5日食べる」「3. 週に2～3日食べる」「4. ほとんど食べない」と答えた方におたずねします。

その理由は何ですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 時間がない
2. 家族が作ってくれない
3. 食べたくない
4. 食べない方が調子がいい
5. 健康法として
6. その他()

問13 栄養バランスのとれた食事（主食、主菜、副菜を組み合わせた食事）を、1日2回以上心がけていますか。（いずれか1つに○）
※主食は米、パン、麺類を使った料理、主菜は魚、肉、卵、大豆などを使った料理、副菜は野菜、きのこ、海藻などを使った料理を言います。

1. はい	1～4回	2. いいえ	1～5回
-------	------	--------	------

問14 問13で「1. はい」と答えた方におたずねします。
栄養バランスのとれた食事を1日2回以上とっている日は週に何日ありますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 毎日	2. 週6日	3. 週4～5日
4. 週2～3日	5. 週1日以下	

問15 普段、料理を作りますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

問16 普段、家族や友人と一緒に食事をとっていますか。（あてはまるもの1つに○）
※オンラインを活用した食事を含む。

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

問17 食事の際、「いただきます」「ごちそうさまでした」のあいさつをしていますか。（あてはまるもの1つに○）

1. している	2. とまどきしている
3. あまりしていない	4. まったくしていない

問18 普段、次の食品を、どれくらい食べて（飲んで）いますか。
①米

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

②野菜類

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

③果物

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

④魚類

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

⑤肉類

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

⑥甘いもの（ケーキやまんじゅうなどの菓子、砂糖入りコーヒエ、清涼飲料水など）

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

⑦惣菜や弁当、インスタント食品や冷凍・レトルト食品など（宅配やテイクアウト含む）

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

⑧外食（ファーストフードやレストランなど、飲食店の食事）

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

問19 健全な食生活を実践するには、自分にととの必要な食事の量を把握し、その人に適した食事をとることが必要です。これには、食生活上の指針などを参考にすることが有効とされています。

●食事バランスガイド
「何ぞ」「どれだけ」食べたいのかをコマの形で表したものの。
●食生活指針
望ましい食生活を実践するための指針。
●日本人の食事摂取基準
1日に必要なエネルギー、栄養素の摂取量の目安を示したものの。
●6つの基礎食品
栄養成分の類似している食品を6群に分類したものの。
●3色分類
食品の体内での主な働きを3つに分け主な食品を分類したものの。
●ちほ型食生活（クエ・パー食生活）
鮮度が良く栄養たっぷりでおいしい千葉県産の農畜産物や水産物を上手に取り入れたバランスのよい食事。おかずの量はおよそ目安として、主菜は「グレー」副菜は「パー」で示したものの。
健全な食生活を実践するため、このような指針などを参考にしていますか。 (あてはまるもの3つまでに○)

問20 食品を購入するとき栄養成分表示を参考にしていますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 参考にしている	2. とまどき参考にしている
3. あまり参考にしていない	4. 参考にしていない

問21 外食の際、栄養成分表示を参考にしていますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 参考にしている	2. とまどき参考にしている
3. あまり参考にしていない	4. 参考にしていない

問22 食事は楽しいですか。（いずれか1つに○）

1. 楽しい	2. 楽しくない
--------	----------

問23 日頃の食生活で、悩みや不安はありますか。(いずれか1つに○)
 1. ある →問24へ 2. 特にない →問25へ

問24 問23で「1. ある」と回答した方におたずねします。

どのようなことに悩みや不安を感じていますか。(あてはまるもの3つまでに○)

1. 自分の健康(歯、口を含む)
2. 家族の健康(歯、口を含む)
3. 栄養バランスや食事内容
4. 将来の食料供給
5. 食文化の伝承
6. 料理が苦手
7. 食品の安全性
8. 家計や食費
9. 食べ残しや廃棄など、環境への影響
10. 買い物や、食事づくりが困難
11. 孤食 ※
12. その他()

※孤食・・・ひとりで食事をとること。



問25 新型コロナウイルス感染症の発生により、あなたの食生活はどのように変わりましたか。(それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	増えた・広がった	変わらな	減った・狭まった	ほとんどない
栄養バランスのとれた食事				
自宅で料理を作る回数				
自宅で食事を食べる回数				
家族と食事を食べる回数				
オンラインを利用して家族や友人と食事を共にすること				
おいしさや楽しさなど食を通じた精神的な豊かさ				
地場産物の購入				
通販(オンライン)を利用した食品購入				
食事作りに要する時間や労力				
食品の安全性への不安				
食に関する情報の入手				
規則正しい食生活のリズム				

IV. あなたの生活や体について、おたずねします。
 問26 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム) という言葉や、その意味を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 言葉も意味も知っていない
2. 言葉は知っているが意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない

メタボリックシンドロームとは・・・

内臓脂肪が蓄積することによって、血圧や血糖が高くなったり、血中の脂質異常がおこったりして、食事や運動などの生活習慣を改善しないと、心筋梗塞や脳卒中などがおこりやすくなる状態をいいます。

問27 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム) や、生活習慣病の予防や改善のため、適切な食事や、定期的な運動などを継続的に実施していますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 半年以上継続している
2. 半年未満である
3. 現在はしていないが、近いうちに始めようと思っている
4. 現在していないし、始めようと思わない

問28 「8020運動」という言葉や、その意味を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 言葉も意味も知っていない
2. 言葉は知っているが意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない

「8020運動」とは・・・

「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という運動です。
 20本以上の歯があれば、食生活にほぼ満足できると言われています。

問29 歯や口の健康状態について、現在どのように感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ほぼ満足している
2. やや不満だが、日常は特に困らない
3. 不自由や苦痛を感じている

問30 食事を噛んで食べるとききの状態はどれにあてはまりますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 何でも噛んで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、噛み合わせなど気になる部分があり、噛みにくいことがある
3. ほとんど噛めない

V. 食の安全・環境への理解について、おたずねします。
 問31 食品を選ぶとき、どのような点に気をつけていますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

1. 賞味(消費)期限	2. 食品添加物
3. メーカー名	4. 原産国
5. 原産地(国内)	6. アレルギ―物質
7. 遺伝子組み換え食品	8. 栄養成分
9. 有機栽培、無農薬栽培	10. 過剰包装でないもの
11. 価格	12. 特になし
13. その他()	

問32 日頃、食の安全に関して不安に思うことは何ですか。

(あてはまるもの3つまでに○)

1. 食品添加物	2. 残留農薬
3. 輸入食品	4. 遺伝子組み換え食品
5. 食品表示の偽り	6. 食中毒
7. 放射性物質	8. 健康食品・サプリメント
9. 特になし	10. その他()

問33 食品を買いすぎない、作りすぎないなど食べ残しを減らす努力をしていますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. している
2. とどきどきしている
3. 気にかけているが、なかなかできていない
4. していない

問34 飲食店やスーパー、または家庭において、食べ残しや食品の廃棄が発生していることに関して「もったいない」と感じることがありますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. いつも感じている	2. とどきどき感じる
3. あまり感じない	4. まったく感じない

問35 「ローリングストック」という言葉や、その意味を知っていますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っているが意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない

ローリングストックとは・・・

普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考慮して古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法です。

VI. 「郷土料理」や「伝統的な行事食」について、おたずねします。

問36 成田市の地場産物(さつまいもや米など)を知っていますか。

(いずれか1つに○)

1. 知っている
2. 知らない

問37 成田市の郷土料理(昔からある料理)を知っていますか。(いずれか1つに○) 知っている方は、()の中に知っているものをお書きください。




1. 知っている () () ()
2. 知らない

問38 伝統的な行事食を知っていますか。(いずれか1つに○)

1. 知っている
2. 知らない

問39 行事食を伴う伝統行事のうち、ご自宅で行っている行事はありますか。

(行っている番号に○)

1. 正月(1月…おせち、お雑煮、七草粥など)	
2. 節分(2月…大豆、いわし料理、恵方巻きなど)	
3. 桃の節句(3月…五目寿司、蛤の粥汁、ひなあられなど)	
4. 春分の日(3月…ぼた餅など)	
5. 端午の節句(5月…ちまき、柏餅など)	
6. 七夕(7月…そうめんなど)	
7. 土用の丑(7月…うなぎなど)	
8. お盆(8月…精進料理など)	
9. 十五夜(9月(10月)…月見団子など)	
10. 秋分の日(9月…おはぎなど)	
11. 七五三(11月…赤飯、千歳飴など)	
12. 冬至(12月…かぼちゃ料理など)	
13. 大晦日(12月…そばなど)	
14. その他()	

VII. 農業体験について、おたずねします。

問40 農家の方、農業に携わっている方以外の方に、おたずねします。

あなた、またはご家族の方が、農業に関する体験をしたことはありますか。(いずれか1つに○)

1. ある	1問41へ
2. ない	1問42へ

問41

問40で「1. ある」と回答された方におたずねします。

参加されたことのある体験は、どのようなものでか。(あてはまるものすべてに○)

1. 栽培開始時期の作業(田植えや、野菜の種まきなど)
2. 栽培中の作業(除草作業など)
3. 収穫作業(稲刈りや芋掘り、野菜の収穫など)
4. 収穫後の加工体験(餅つきや、味噌づくりなど)
5. その他()

問42

問40で「2. ない」と回答された方におたずねします。

農業に関する体験をしてみたいですか。(いずれか1つに○)

1. してみたい
2. してみたいとは思わない

(2) 小学5年生・中学2年生調査票

小学5年生・中学2年生への調査は、web アンケートにて実施しており、以下に掲載する調査票は、回答時の入力画面と異なりますが、内容は同一です。

夕ごはんは、何時ごろ食べ始めますか。平日の時間で答えてください。1つ選んでください。

午後6時前
午後6時～7時の間
午後7時～8時の間
午後8時～9時の間
午後9時すぎ
決まっていない

夕ごはんは、ねるまでの間に何か食べますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日食べている
1週間に4～5日 食べている
1週間に2～3日 食べている
ほとんど食べない

朝ごはんは誰と食べていますか。1つ選んでください。

家族全員で食べている
大人の家族の誰かと子どもで食べている
子ども（きょうだい）だけで食べている
一人で食べている
その他（ ）

夕ごはんは誰と食べていますか。1つ選んでください。

家族全員で食べている
大人の家族の誰かと子どもで食べている
子ども（きょうだい）だけで食べている
一人で食べている
その他（ ）

野菜

次の食品を、どのくらい食べていますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日
1週間に3～5日
あまり食べない

次の食品を、どのくらい食べていますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日
1週間に3～5日
あまり食べない

魚

次の食品を、どのくらい食べていますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日
1週間に3～5日
あまり食べない

I. あなたのことを教えてください。

あなたの学年と性別を選んでください。

●学年 小学5年生 中学2年生
●性別 男子 女子

II. 食育についてお聞きします。

「食育」という言葉を知っていますか。1つ選んでください。

言葉も意味も知っている
言葉は聞いたことがあるけど、意味は良く知らない
言葉も意味も知らない、聞いたこともない

III. ふだんの食事、食生活について教えてください。

朝ごはんを毎日食べていますか。1つ選んでください。

毎日食べている
1週間に1～2日 食べないことがある
1週間に3～4日 食べないことがある
食べないことが多い

「1週間に1～2日 食べないことがある」「1週間に3～4日食べないことがある」「食べないことが多い」を選んだ人にお聞きします。

その理由は何ですか。1つ選んでください。

食欲がないから
おなかがすいていないから
太りたくないから
時間がないから
いつも食べないから
用意がされていないから
その他（ ）

ふだん、どのような朝ごはんを食べていますか。

あてはまるもの、すべてを選んでください。

ごはん、パン、めん（主食）
肉、魚、たまご、大豆、大豆製品（主菜）
野菜、きのこ、海そう、いも（副菜）
牛乳、チーズ、ヨーグルト
くだもの
お菓子類（菓子パンを含む）
ジュース類
その他（ ）

学校から帰って、夕ごはんまでの間、おやつを食べますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日食べている
1週間に4～5日 食べている
1週間に2～3日 食べている
ほとんど食べない

あなたは、水、お茶、牛乳以外の飲み物をどのくらい飲みますか。
(1本というのはペットボトル500mlのことです。)
1つ選んでください。

- 1日に2本以上
- 1日1本くらい
- 1週間に3～5本くらい
- 1週間に1～2本くらい
- ほとんど飲まない

お手伝いをしていますか。

あてはまるもの、すべてを選んでください。

- 買い物
- 料理の手伝い
- テーブルの準備
- あとかたづけ
- 食器洗い
- 何もしていない
- その他 ()

料理を作ることがありますか。1つ選んでください。

- 作る
- ときどき作る
- 作らない

食事のとき、「いただきます」「ごちそうさまでした」のあいさつをしていますか。
1つ選んでください。

- いつもしている
- ときどきしないことがある
- していない

家族と食べ物・食べ方などについて話をしますか。1つ選んでください。

- よくする
- ときどきする
- したことがない

具体的にどのような話をしますか。(自由記述)

あなたが食事を楽しみな・うれしいと感じるときは、どんなときですか。
3つまで選んでください。

- 家族みんなで食べているとき
- 外食のとき
- 学校で給食を食べているとき
- 自分で作ったり、手伝ったものを食べているとき
- 一人で食べているとき
- スマートフォン・テレビなどをみながら食べているとき
- 特になし
- その他 ()

どのようなことに気をつけて食事をしていきますか。あてはまるもの、すべてを選んでください。

- よくかんで食事をする
- 朝・昼・夕と3食かならず食べる
- 栄養バランスを考えて食べる
- お菓子、スナック菓子、ジュースを食べすぎない・飲みすぎない
- はしの持ち方などのマナー
- 残さず食べる
- 塩からい(しょっぱい)ものを食べすぎない
- 牛乳や小魚を食べる
- 野菜を多く食べる
- 好き嫌いをしていない
- ごはんとおかずを、かわるがわる食べる
- 楽しく食事をする
- その他 ()

学校の給食は好きですか。1つ選んでください。

- 好き
- ふつう
- 好きではない

「好き」を選んだ人にお聞きします。

その理由は何ですか。3つまで選んでください。

- おいしいから
- お友達といっしょに、みんなで食べられるから
- 先生といっしょに食べられるから
- みんなと同じものが食べられるから
- 好きなものが食べられるから
- 家では食べられないものが食べられるから
- 栄養のバランスがいいから
- その他 ()

給食を残すことがありますか。1つ選んでください。

- 全部食べる
- ときどき残す
- いつも残す

「ときどき残す」「いつも残す」を選んだ人にお聞きします。それはどうしてですか。3つまで選んでください。

- 量が多い
- 食欲がない
- 太りたくない
- 一度にたくさん食べるとはずかしい
- 時間が短い
- おいしくない
- きらいなものがある
- からだの調子が悪い
- その他()

IV.

食文化について、お聞きします。成市の有名な農産物(さつまいもや米など)や食品を知っていますか。1つ選んでください。

- 知っている
- 知らない

学校以外で、農業に関する体験をしたことはありますか。体験したことのあるもの、すべてを選んでください

- 田植え
- 野菜の種まき
- 稲刈り
- いもほり
- 野菜のしゅうかく
- もちつき
- みそづくり
- したことがない
- その他()

V.

ふだんの生活や、体のことについて教えてください。学校へ行く前日は何時ごろに寝ていますか。1つ選んでください。

- 午後8時より前
- 午後8時～9時の間
- 午後9時～10時の間
- 午後10時～11時の間
- 午後11時～午前0時の間
- 午前0時すぎ

学校へ行く日は何時ごろに起きますか。1つ選んでください。

- 午前6時より前
- 午前6時～7時の間
- 午前7時～8時の間
- 午前8時すぎ

体育の時間やクラブ活動の時間以外で、運動したり、体を使って遊んだりする機会ほどのくらいありますか。土曜日、日曜日も含め、1つ選んでください。

- 毎日
- 1週間のうち4～6日
- 1週間のうち1～3日
- あまりない

自分の今の食生活を、どう思いますか。1つ選んでください。

- よい
- あまりよくない
- よくない

「あまりよくない」「よくない」を選んだ人にお聞きします。その理由は何ですか。3つまで選んでください。

- 食べるものがたよっている
- 朝ごはんや夕ごはんなどを食べないことが多い
- よくかまないで食べている
- おやつなどの間食が多い
- 食べ過ぎてしまう
- 食べる時間が決まっていない
- その他()

食事かんで食べるときの状態はどれに当てはまりますか。1つ選んでください。

- 何でもかんで食べることができる
- 歯や舌ぐき、かみ合わせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
- ほとんどかめない

(3) 高校2年生調査票

高校2年生への調査は、web アンケートにて実施しており、以下に掲載する調査票は、回答時の入力画面と異なりますが、内容は同一です。

夕食は、何時頃に食べ始めますか。平日の時間で答えてください。1つ選んでください。

午後6時前
午後6時～7時の間
午後7時～8時の間
午後8時～9時の間
午後9時すぎ
決まっていない

夕食後、寝るまでの間に何か食べますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日食べている
1週間に4～5日 食べている
1週間に2～3日 食べている
ほとんど食べない

朝食は誰と食べていますか。1つ選んでください。

家族全員で食べている
大人の家族の誰かと子どもで食べている
子ども(兄弟)だけで食べている
一人で食べている
その他 ()

夕食は誰と食べていますか。1つ選んでください。

家族全員で食べている
大人の家族の誰かと子どもで食べている
子ども(兄弟)だけで食べている
一人で食べている
その他 ()

野菜

次の食品を、どのくらい食べていますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日
1週間に3～5日
あまり食べない

果物

次の食品を、どのくらい食べていますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日
1週間に3～5日
あまり食べない

魚

次の食品を、どのくらい食べていますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日
1週間に3～5日
あまり食べない

I. あなたのことを教えてください。

あなたの性別を選んでください。

●性別 男子 女子

II. 食育についてお聞きします。

「食育」という言葉を知っていますか。1つ選んでください。

言葉も意味も知っている
言葉は聞いたことあるけど、意味は良く知らない
言葉も意味も知らない、聞いたこともない

III. 普段の食事、食生活について教えてください。

朝食を毎日食べていますか。1つ選んでください。

毎日食べている
1週間に1～2日 食べないことがある
1週間に3～4日 食べないことがある
食べないことが多い

「1週間に1～2日 食べないことがある」「1週間に3～4日食べないことがある」「食べないことが多い」を複数人にお聞きします。

その理由は何ですか。1つ選んでください。

食欲がないから
お腹が空いていないから
太りたくないから
時間がいないから
いつも食べないから
用意がされていないから
その他 ()

普段、どのような朝食を食べていますか。

あてはまるもの、すべてを選んでください。

ごはん、パン、麺(主食)
肉、魚、卵、大豆、大豆製品(主菜)
野菜、きのこ、海藻、芋(副菜)
牛乳、チーズ、ヨーグルト
果物
お菓子類(菓子パンを含む)
ジュース類
その他 ()

学校から帰って、夕食までの間、おやつを食べますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日食べている
1週間に4～5日 食べている
1週間に2～3日 食べている
ほとんど食べない

あなたは、水、お茶、牛乳以外の飲み物をどのくらい飲みますか。
(1本というのはペットボトル500mlのことです。)
1つ選んでください。

1日に2本以上
1日1本くらい
1週間に3～5本くらい
1週間に1～2本くらい
ほとんど飲まない

お手伝いをしていますか。
あてはまるもの、すべてを選んでください。

買い物
料理の手伝い
テーブルの準備
後片付け
食器洗い
何もしていない
その他 ()

料理を作ることがありますか。1つ選んでください。

作る
ときどき作る
作らない

食事のとき、「いただきます」「ごちそうさまでした」のあいさつをしていますか。
1つ選んでください。

いつもしている
ときどきしないことがある
していません

家族と食べ物・食べ方などについて話をしますか。1つ選んでください。

よくする
ときどきする
したことがない

具体的にどのような話をしますか。(自由記述)

--

あなたが食事を楽ししい・嬉しいと感じるときは、どんなときですか。
3つまで選んでください。

家族みんなで食べているとき
外食のとき
学校で給食を食べているとき
自分で作ったり、手伝ったものを食べているとき
一人で食べているとき
スマートフォン・テレビなどをみながら食べているとき
特になし
その他 ()

どのようなことに気をつけて食事をしていきますか。
あてはまるもの、すべてを選んでください。

よく噛んで食事をする
朝・昼・夕と3食必ず食べる
栄養バランスを考えて食べる
お菓子、スナック菓子、ジュースを食べ過ぎない・飲み過ぎない
箸の持ち方などのマナー
残さず食べる
塩辛い(しょっぱい)ものを食べ過ぎない
牛乳や小魚を食べる
野菜を多く食べる
好き嫌いをしない
ごはんとおかずを、かわるがわる食べる
楽しく食事をする
その他 ()

IV.

食文化について、お聞きします。
成田市の有名な農産物(さつまいもや米など)や食品を知っていますか。
1つ選んでください。

知っている
知らない

学校以外で、農業に関する体験をしたことはありますか。体験したことのあるもの、すべてを選んでください

田植え
野菜の種まき
稲刈り
芋掘り
野菜の収穫
餅つき
味噌づくり
したことがない
その他 ()

V.

普段の生活や、体のことについて教えてください。
学校へ行く前の日は何時頃に寝ていますか。1つ選んでください。

午後8時より前
午後8時～9時の間
午後9時～10時の間
午後10時～11時の間
午後11時～午前0時の間
午前0時すぎ

学校へ行く日は何時頃に起きますか。1つ選んでください。

午前6時より前
午前6時～7時の間
午前7時～8時の間
午前8時すぎ

体育の時間やクラブ活動の時間以外で、運動したり、体を使って遊んだりする
機会はどのくらいありますか。土曜日、日曜日も含め、1つ選んでください。

毎日
1:週間のうち4～6日
1:週間のうち1～3日
あまりない

自分の今の食生活を、どう思いますか。1つ選んでください。

よい
あまりよくない
よくない

「あまりよくない」「よくない」「よくない」を選んだ人にお聞きします。
その理由は何ですか。3つまで選んでください。

食べるものが偏っている
朝ごはんや夕ごはんなどを食べないことが多い
よく噛まないで食べている
おやつなどの間食が多い
食べ過ぎてしまう
食べる時間が決まっていない
その他 ()

食事を噛んで食べるときの状態はどれにあげてはまりますか。1つ選んでください。

何でも噛んで食べることができる
歯や舌ぐき、噛み合わせなど気になる部分があり、噛みにくいことがある
ほとんど噛めない

食育に関するご意見・ご要望など、ご入力ください。

--

(4) 外国人調査票

Questionnaire about Food and Nutritional Education (Multicultural)

(Narita City Economic Dpt. Agricultural Policy Division)

◎ Please answer about yourself (circle the related answer)

●Age 20s 30s 40s 50s 60s 70s and over

●Sex Male Female I don't want to answer

Your country of origin

●Country where you were born

Q1 Do you know the word "Shokukuiku" (Food Education) and its meaning? (Circle one answer)

1. I know the word and its meaning
2. I know the word, but I don't know the meaning ⇒Go to No.4
3. I don't know the word and the meaning ⇒Go to No.4

Q2 Do you have interest in "Shokukuiku" (Food Education)? (Circle one answer)

1. Yes, I do.
2. No, I don't.

Q3 Do you practice "Shokukuiku"? (Circle one answer)

1. Yes, I do.
2. No, I don't.

Q4 Do you eat breakfast? (Circle one answer)

※If it is just a drink (nutrition drink, vegetable juice) it is not considered to be breakfast.

1. I eat breakfast almost every day.
2. I eat breakfast 4-5 times a week.
3. I eat breakfast 2-3 times a week.
4. I almost never eat breakfast.

Q5 Are you trying to eat nutritionally balanced meals (staple food, main and side dish) more than twice in a day? (Circle one answer)

※Staple food: rice, bread, noodles ; Main Dish: fish, meat, beans;
Side dish: vegetables, mushrooms, seaweed.

1. Yes
2. No

Q6 Do you usually eat with your family or friends? (Circle one answer)

※ including meals with family or friends online

1. Every meal
2. twice a day
3. once a day
4. 4-6 times a week
5. 1-3 times a week
6. not even once a week

Q7 To practice healthy eating habits, do you refer to nutritional standards? (Circle one answer. Including nutritional standards of your country.)

1. Yes, I do
2. No, I don't
3. I don't know

Q8 When you buy food, do you refer to nutritional information?

(Circle one answer)

1. Yes, I do
2. No, I don't
3. I don't know

Q9 Do you make any efforts to not buy too much food and to not cook too much in order to reduce food waste (Circle one answer)

1. Yes, I do.
2. No, I don't.

Q10 Do you know any Narita City's local products (sweet potatoes, rice), etc.?

(Circle one answer)

1. Yes, I do.
2. No, I don't.

Q11 Do you know Narita City's local cuisine (traditional Narita's)? (Circle one answer)

For those who know, please write in brackets the names of the food. ()

1. Yes, I do, () ()
2. No, I don't.

Q12 What do you expect from Narita City in regards to "Shokukuiku".

Thank you very much for your time and effort.

食育アンケート（多文化用）

（成田市経済部農政課）

◎ あなたのことについて、お答えください。（あてはまるもの1つに○）

●年代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳代以上

●性別 男性 女性 無回答

出身国を教えてください。

●出身国

問1 「食育」という言葉や、その意味を知っていますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 言葉も意味も知っている

2. 言葉は知っているが意味は知らない ⇒問4へ

3. 言葉も意味も知らない ⇒問4へ

問2 「食育」に関心がありますか。（いずれか1つに○）

1. ある

2. ない

問3 「食育」を実践していますか。（いずれか1つに○）

1. している

2. していない

問4 朝食を食べていますか。（あてはまるもの1つに○）

※栄養ドリンク剤、野菜ジュース等の場合は含みません。

1. ほぼ毎日食べている

2. 週に4～5日食べる

3. 週に2～3日食べる

4. ほとんど食べない

問5 栄養バランスのとれた食事（主食、主菜、副菜を組み合わせた食事）を、1日

2回以上心がけていますか。（いずれか1つに○）

※主食は米、パン、麺類を使った料理、主菜は魚、肉、卵、大豆などを使った

料理、副菜は野菜、きのこ、海藻などを使った料理を言います。

1. はい

2. いいえ

問6 普段、家族や友人と一緒に食事をとっていますか。（あてはまるもの1つに○）
※オンラインを活用した食事を含む。

1. 毎食

2. 1日2回

3. 1日1回

4. 週4～6回

5. 週1～3回

6. 週1回もない

問7 健全な生活を実践するため、栄養基準などを参考にしていますか。

（あてはまるもの1つに○。出身国の基準も含む。）

1. 参考にしている

2. 参考にしていない

3. わからない

問8 食品を購入するとき栄養成分表示を参考にしていますか。

（あてはまるもの1つに○）

1. 参考にしている

2. 参考にしていない

3. わからない

問9 食品を買わずぎない、作りすぎないなど食べ残しを減らす努力をしていますか。

（いずれか1つに○）

1. している

2. していない

問10 成田市の地場産物（さつまいもや米など）を知っていますか。

（いずれか1つに○）

1. 知っている

2. 知らない

問11 成田市の郷土料理(昔からある料理)を知っていますか。（いずれか1つに○）

知っている方は、()の中に知っているものをお書きください。

1. 知っている () ()

2. 知らない

問12 食育に関して、市に期待することは何ですか。ご自由にお書きください。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

第3次成田市食育推進計画

発行 成田市

編集 経済部 農政課

〒 286-8585

成田市花崎町760番地

TEL 0476-20-1541

FAX 0476-24-2185

E-mail nosei@city.narita.chiba.jp

発行日 令和5年 3月

登録番号 成農22-054

